



基幹研究

【王朝文学の流布と継承】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、寺島恒世、久保木秀夫、齋藤真麻理、浅田徹（お茶の水女子大学准教授）、安達敬子（京都府立大学准教授）、入口綾（元統計数理研究所非常勤職員）、上野洋三（元九州大学教授）、小川陽子（松江工業高等専門学校助教）、勝保隆（長崎大学教授）、加藤昌嘉（法政大学准教授）、神作研一（金城学院大学教授）、日下幸男（龍谷大学教授）、小林一彦（京都産業大学教授）、坂巻理恵子（大正大学非常勤講師）、佐藤信子（元当館研究機関研究員）、妹尾好信（広島大学教授）、田野慎二（広島国際大学准教授）、田淵句美子（早稲田大学教授）、鶴崎裕雄（帝塚山学院大学名誉教授）、西本寮子（県立広島大学教授）、原豊二（米子工業高等専門学校准教授）、福田景道（島根大学教授）、藤田洋治（東京成徳短期大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学准教授）、松原一義（鳴門教育大学教授）、安原真琴（立教大学助教）、山本登朗（関西大学教授）、横井孝（実践女子大学教授）

プロジェクト補助者：野本留美（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

平成20年度は共同研究会を2回開催し、6名の共同研究員により研究発表がなされ活発な討論が行われた。また、メンバーが各地で文献資料調査を行い、それぞれが学会や学術雑誌などで研究成果を発表した。さらに、国文学文献研究の方法を説く新たな成果物の出版に向けて検討を開始した。

（2）活動記録

[研究会]

第1回研究会

- ・日程 6月6日（金）
- ・場所 国文学研究資料館 第1会議室
- ・プログラム

西本寮子：「江戸時代における『とりかへばや』伝本の流布一寛延四年書写本の出現から一」

鶴崎裕雄：「歌枕と紀行一近世初頭の武士（国人衆）への王朝文学の流布と継承一」

第2回研究会

- ・日程 12月24日（水）
- ・場所 国文学研究資料館 第1会議室
- ・プログラム

齋藤真麻理：「龍王の訓え」

安原真琴：「和歌の形象一『扇の草子』の扇絵の検討」

寺島恒世：「新古今時代の『源氏物語』受容」

日下幸男：「近世初期の源氏学とその周辺」

[資料調査]

安達敬子：12月1～2日 国文学研究資料館（館蔵資料閲覧のため）

神作研一：9月4～6日・10月15～17日 国文学研究資料館・国会図書館（資料調査のため）

妹尾好信：1月8～9日 金沢市立玉川図書館（加越能文庫蔵『菅家須磨記』調査のため）

田淵句美子：11月21～22日 茶道資料館（鎌倉期茶道関係史料調査のため）・1月17日・京都国立博物館（和歌関係資料の展覧閲覧のため）

鶴崎裕雄：12月15～16日 宮内庁書陵部（和古書調査のため）

藤田洋治：11月25日 山形大学附属中央図書館（和古書調査のため）

松原一義：12月18～19日 諏訪市博物館（国文学関係資料の調査のため）

山本登朗：11月14～16日・12月5日 鉄心斎文庫（伊勢物語肖聞抄伝本調査のため）

[研究成果]

安原真琴：「『扇の草子』に見る十七世紀前後の『源氏物語』享受」（小嶋菜温子・小峯和明・渡辺憲司編『源氏物語と江戸文化—可視化される雅俗』所収、2008年5月、森話社）

松原一義：「宮内庁書陵部蔵『いさよひ乃記』の解説と翻刻」

（『鳴門教育大学研究紀要』23、2008年）

田淵句美子：「『紫式部日記』消息部分再考—『阿仏の文』から—」

（『国語と国文学』2008年12月）

[その他]

館内メンバーである久保木秀夫助教が基幹研究での研究成果「栄花物語本文再考—西本願寺本を中心とする—」（『中古文学』80、2007年12月）で2008年10月に第1回中古文学会賞を受賞した。

【19世紀における出版と流通】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：大高洋司、山下則子、青田寿美、木戸雄一、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、勝又基（明星大学講師）、加藤禎行（山口県立大学講師）、菊池庸介（元学習院大学非常勤講師）、木田隆文（龍谷大学特別任用講師）、キャンベル、ロバート（東京大学教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、島田大助（豊橋創造大学准教授）、杉浦晋（埼玉大学准教授）、鈴木俊幸（中央大学教授）、関肇（京都光華女子大学准教授）、津田真弓（日本女子大学非常勤講師）、十重田裕一（早稲田大学教授）、長尾直茂（上智大学准教授）、中丸宣明（山梨大学教授）、樋口恵（私立開智中学校・高等学校教諭）、山本和明（相愛大学教授）、山本陽史（山形大学教授）、湯浅佳子（東京学芸大学准教授）、渡辺麻里子（弘前大学准教授）

(1) 概要

前年度に引き続き、対象とする図書館・資料館の所蔵資料の調査・研究を行い、それに基づいて研究会を開催するとともに、研究成果の一部を公開し、研究を着実に前進させた。

(2) 活動記録

[研究会]

平成20年度は共同研究会を1回行った。

・日程 12月19日

・場所 国文学研究資料館 第2会議室

- ・報告 谷川恵一：「新刊書を回覧する―〈自他楽会〉における読書行為―」
- 木戸雄一：「江差町郷土資料館蔵藤枝家文書について」
- 青田寿美：「酒田市立光丘文庫の読書会資料について」

【研究成果】

『調査研究報告』第二十九号に「自他楽会資料（二）」を掲載した。弘前市立弘前図書館に所蔵される自他楽会資料の内、明治三十五年以降のものを、研究メンバーが分担して翻刻したものである。

【「源氏物語」再生のための原典資料研究】

プロジェクト代表者：伊井春樹

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、入口敦志、江戸英雄、岡崎久司（当館客員教授・九州大学客員教授）、久保木秀夫、中村康夫、山崎誠、加藤昌嘉（法政大学准教授）、神野藤昭夫（跡見学園女子大学教授）、藤本孝一（古代学協会研究員）、別府節子（出光美術館学芸員）、横井孝（実践女子大学教授）

（1）概要

本研究は、新館開館を記念して、源氏物語一千年紀祭展示「源氏物語特別展示」及び源氏物語特別講演会・シンポジウムを実施開催する上で必要な調査と研究を行うことを目的としたものである。

特に本年度は、源氏物語展のための展示準備と図録の作成に集中し、大きな成果が得られた。

（2）活動記録

【研究会】

第1回研究会

- ・日程 平成20年5月26日（月）
- ・場所 第2会議室
- ・発表者と演題

討議形式

題目（内容） 特別展・源氏物語展の名称の検討と図録の確認等

第2回研究会

- ・日程 平成20年6月25日（水）
- ・場所 第2会議室
- ・発表者と演題

岡崎久司：「資料展示の意義と手法」

特別展・源氏物語展開催にあたっての心得を中心とした講演

【展示・シンポジウム】

① 5月23日の開館式典で基幹研究プロジェクト「『源氏物語』再生のための原典資料研究」としてパネル参加。

② 10月4～31日

特別展「源氏物語 千年のかがやき」（於・国文学研究資料館展示室）を実施。

【研究成果】

展示図録『源氏物語 千年のかがやき』（思文閣出版、平成20年10月）を刊行。



研究プロジェクト

1. 文学資源研究系

【総括】

文学資源研究系では下記の4つの共同研究プロジェクトを推進しているが、平成19年度が法人第一期における中期目標の評価対象期間であったことから、各プロジェクトが中間報告として研究成果をまとめたために、平成20年度はその活動を受けて次への展開を図る期間となった。各プロジェクトは以下のように、シンポジウムや研究会を行って研究活動に取り組み、また次へのステップのため、前年度に公にした研究成果の検証を積極的に行った。

【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】は国際シンポジウム「江戸の絵本・画譜」を6月に開催し、国内外の研究者に研究の最先端を示した。【和刻本「五山版・近世初期刊本」の研究】はデータベースの充実を図るとともに、7月には「古典形成の基盤としての中世資源プロジェクト」と合同研究会を行って成果をあげた。【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】は、次年度刊行予定の『人情本事典』や「八戸市立図書館実録解題」の準備作業を着実に進めた。【学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】は代表が田淵句美子から寺島恒世にかわり、昨年度に研究成果として刊行した『夫木和歌抄 編纂と享受』についての講評と検証を行って、次年度への研究へと繋いだ。

【日本古典籍特定コレクションの目録化の研究】

プロジェクト代表者：鈴木淳

プロジェクト参加者：井田太郎、檜山裕子（当館機関研究員）、フォラー、マティ（当館外国人研究員（客員教授）・ライデン大学名誉教授）、浅野秀剛（大和文華館長）、岩切友理子（国際浮世絵学会会員）、岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）、神楽岡幼子（愛媛大学准教授）、キャンベル、ロバート（東京大学教授）、小林ふみ子（法政大学講師）、佐藤悟（実践女子大学教授）

(1) 概要

本年度は、国際絵本シンポジウム「江戸の絵本・画譜」（講演、研究発表、パネルディスカッション）を開催したほか、研究会を2回実施し、次年度の絵本論文集の刊行と、展示の開催に向けて準備を進めた。また、ドイツ国プルヴェラー旧蔵の絵本資料の書誌データの整理を進めた。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回 研究会

- ・日時 10月4日（土）
- ・場所 国文学研究資料館 2F オリエンテーション室
- ・研究発表の内容

齋藤千恵：「赤本『花ういろう』について」
 フォラー、マティ：「絵入り狂歌本について」

第2回 研究会

- ・日 時 12月20日(土)
- ・場 所 国文学研究資料館 2F オリエンテーション室
- ・研究発表の内容
 鈴木 淳：「絵本展示案について」

[資料調査]

大阪某家、三重県某家で歌仙絵関係絵本の調査を実施した。その他、国立国会図書館等で絵本の調査を実施した。

[展示・シンポジウム]

国際絵本シンポジウム「江戸の絵本・画譜」

- ・日 時 6月28日(土)～29日(日)
- ・講演の内容
 キーズ、ロジャー：「日本の絵本 普遍的な魅力、特質と世界美術におけるその位置付けについて」(司会・通訳 キャンベル、ロバート)

[研究発表]

山本ゆかり：「月岡雪鼎と絵本ー西川祐信からの継承と離脱ー」
 倉員正江：「江嶋其現作・西川祐信『女中風俗玉鏡』の初版と覆刻版をめぐって」
 張小綱：「白楽天来日の伝説とその変容ー鈴木春信の『見立白楽天』を中心に」
 パネルディスカッション：「絵本・画譜 そのメカニズムを読み解く」
 パネリスト：鈴木淳、浅野秀剛、岩切友里子、佐藤悟、マルケ・クリストフ

[研究成果]

研究成果については、平成21年度に成果刊行物として出版予定。

【和刻本「五山版・近世初期刊本」の研究】

プロジェクト代表者：山崎 誠

プロジェクト参加者：入口敦志、陳 捷、青木隆（日本大学准教授）、川原秀城（東京大学教授）、
 高津孝（鹿児島大学教授）、長澤孝三（帝京大学教授）、堀川貴司（鶴見大学教授）

プロジェクト補助者：王晓瑞（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

平成20年に、年次計画に沿って、次の業務を推進してきた。

- ① 五山版・近世初期刊本の書誌情報の整備：平成19年に引き続き、五山版、近世初期刊本の書誌データと、それに関する研究論文、書影索引などの情報を織り込んだ基本台帳の充実。
- ② 和刻本漢籍データベースの補充：平成20年にホームページで公開した和刻本漢籍データベースのデータの修正、序跋文情報などの増補。
- ③ 研究文献目録の作成：和刻本に関する研究文献の調査・収集。
- ④ 以上の基本作業を踏まえて、日本漢文学や日中文化交流史などの側面から和刻本の研究を行い、中国からの研究者を招いた共同研究会を「古典形成の基盤としての中世資料の研究」プロジェクトと連携して開催し、和刻本とそれを取りまく東アジアの出版状況についての研究発表と討議を行った。

(2) 活動記録

【和刻本プロジェクト】【古典形成の基盤としての中世資源プロジェクト】の合同研究会

- ・日 時：2008年7月23日（水）午前10時～午後17時30分
- ・場 所：国文学研究資料館 第2会議室
- ・発表者とテーマ：

第1部

相田 満：「文字と故事のキャラクター「朱博」故事をめぐる「鳥」と「鳥」の問題系一」

渡辺信和：「聖徳太子をめぐる人のキャラクター—学哥論—」

三田明弘：「夷堅志にみる宋代の歴史人物」

勝俣 隆：「天人のキャラを通してみた『あめわかみこ（七夕）』の構造」

討論と質疑応答

第2部

許 紅 霞：「南宋詩僧詩文集の和刻本について」

王 瑞来：「『礼失而求諸野』—研究経験より和刻本漢籍の価値を語る—」

入口敦志：「和刻本における中国イメージの造型」

李 慶：「成笈堂文庫所蔵『新雕入篆説文正字』の二三問題について」

討論と質疑応答

[資料調査]

国立公文書館、東京大学、無窮会図書館、大阪府立中央図書館などでの和刻本調査および和刻本文献目録作成のための資料調査を行った。

[展示・シンポジウム]

[研究成果]

陳 捷：「彫り師木村嘉平と筆意彫り」（『アジア遊学』No. 109. 2008年4月 勉誠出版）

陳 捷：「日本に渡来した中国の時令書について」（『国文学研究資料館ニュース』No. 12. 2008年8月）

入口敦志：「模倣と変容—『帝鑑図説』受容発端」（江戸文学 38：21（22-42））（平20年）

【近世後期小説の様式的把握のための基礎研究】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：近藤瑞木（当館客員准教授・首都大学東京助教）、飯倉洋一（大阪大学教授）、大屋多詠子（青山学院大学准教授）、勝又基（明星大学准教授）、菊池庸介（元学習院大学非常勤講師）、木越俊介（山口県立大学准教授）、小二田誠二（静岡大学准教授）、鈴木圭一（神奈川県立川崎北高等学校教諭）、高橋圭一（大阪大谷大学教授）、田中則雄（島根大学教授）、津田眞弓（慶応義塾大学准教授）、濱田啓介（京都大学名誉教授）、檜山裕子（青山学院高等部非常勤講師）、藤澤毅（尾道大学教授）、二又淳（明治大学非常勤講師）、山本卓（静岡県立科学技術高等学校教諭）、山本卓（関西大学教授）
井上泰至（防衛大学校准教授）、湯浅佳子（東京学芸大学准教授）

プロジェクト補助者：金時徳（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

昨年度刊行の『読本事典 江戸の怪奇小説』（平成20年2月、笠間書院）の好評を受け、同出版社

より『人情本事典（仮題）』を刊行することになり、解題作成、図版の撮影を進行させた。②「江戸文学」40号（ペリカン社、平成21年5月刊行予定）の誌面を提供してもらい、特集「（よみほん）様式考」として12名に論文執筆を依頼した。③「八戸市立図書館実録解題」の準備作業を進行させた。

(2) 活動記録

[研究会]

- ・日 時 1月10日（木）～11日（金）
- ・場 所 国文学研究資料館大会議室
- ・第一日プログラム
大高洋司：「活動報告」
藤川玲満：「国文学研究資料館蔵『秋里家譜』について」
紅林健志：「『本朝水滸伝』改題考」
- ・第二日プログラム
勝又 基：「敵討実録について」
中嶋 隆：「読本」としての浮世草子一様式と文体の観点から一」など

[研究成果]

本年度の成果は、「概要」に挙げた①～③、また来年度10月開催予定の特別展「江戸の長編読みもの一読本・実録・人情本」に反映される予定である。

【学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—】

プロジェクト代表者：寺島恒世

プロジェクト参加者：小川剛生、久保木秀夫、齋藤真麻理、石澤一志（目白大学専任講師）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、大谷俊太（奈良女子大学教授）、鈴木健一（学習院大学教授）、鈴木元（熊本県立大学教授）、田淵句美子（早稲田大学教授）、福田安典（愛媛大学教授）、三戸信恵（サントリー美術館学芸員）、三村晃功（京都光華女子大学教授）、渡邊裕美子（早稲田大学非常勤講師）

(1) 概 要

平成20年度は、共同研究会を愛媛大学にて開催するとともに、必要に応じてさらに各地で原本調査を行った。

(2) 活動記録

[研究会]

- ・日 時：8月18日（月）～19日（火）
- ・場 所：愛媛大学附属図書館
- ・発表者：寺島恒世
- ・題目（内容）：平成19年度未刊行成果『夫木和歌抄 編纂と享受』につき、今年度から新たに加わり、研究代表者となった寺島が、各論の成果の分析とその評価を交えた講評を行い、それに基づいて研究活動を検証し、今後の課題を含めて議論を深めた。

[資料調査]

愛媛大学附属図書館所蔵鈴鹿本の西順自筆『夫木和歌抄抜書』を含む諸善本を閲覧させて頂き、各自に予め閲覧希望を提出していた書目につき、書誌調査を行った。また、プロジェクトメンバーそれぞれに継続的に各地に伝存している諸本の調査を行った。

2. 文学形成研究系

【総括】

平成20年度の文学形成研究系では、以下に記す3つの共同研究プロジェクトを推進した。平成19年度までが第1期中期目標期間の評価対象とされていたため、当該年度は補足研究の期間とする予定であったが、研究会の開催、研究成果の発表、成果物の刊行が予想以上に活発に行われた。これらの活動は、共同研究のための資料の調査収集と整備、共同研究会に向けて個々で行う予備研究を基盤とするものであった。

【平安文学における場面生成研究】プロジェクトでは、本年度も研究成果報告として『物語の生成と受容④』（全294頁）を発行、さらにその付録として翻刻・解題から成る『源氏物語歌寄せ』（全219頁）を発行した。【古典形成の基盤としての中世資料の研究】プロジェクトは大学や学会と連携した共同研究会を開催、その成果を『アジア遊学』118号（勉誠出版）に掲載した（4～167頁）。【近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究】プロジェクトは、海外における二つの学会（アメリカ日本文学会・ヨーロッパ日本研究学会）で研究成果を発表、プロジェクト報告書第4号（全93頁）を発行した。

各プロジェクトでは、共同研究に新しいメンバーを加えるなどして、陣容の充実を図った。また【古典形成の基盤としての中世資料の研究】プロジェクトは伊藤潤から谷川淳子へ、【近世文学の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究】プロジェクトは光延真哉から紅林健志へそれぞれリサーチ・アシスタントが交代、【平安文学における場面生成研究】プロジェクトには新たに機関研究員として阿尾あすかが加わった。

【平安文学における場面生成研究—物語の生成と受容】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、阿尾あすか（当館機関研究員）、岩城賢太郎（宇部工業高等専門学校講師）、小川陽子（松江工業高等専門学校助教）、加藤昌嘉（法政大学准教授）、金光佳子（京都大学准教授）、高橋由記（明星大学非常勤講師）、中川照将（皇學館大学講師）、萩野敦子（琉球大学准教授）、松岡智之（静岡大学准教授）、横井孝（実践女子大学教授）、横溝博（秀明大学講師）

プロジェクト補助者：森田直美（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

昨年度に引き続き、平安文学の研究領域を拡大し活発な議論を誘発する礎を構築する目標を立てて、「物語と歴史」を小テーマに設定し、『栄花物語』と『うつほ物語』を主たる対象に、歴史物語の編纂資料やプロジェクト名に冠した「場面」を共同討議の場に上せるとともに、近世琉球の擬古文物語や中世歌人正徹の平安物語の幅広い受容を取り上げた。

(2) 活動記録

【研究会】

第8回研究会

- ・平成20年8月6日（水）
- ・国文学研究資料館第1会議室

- ・テーマ《物語と歴史》
高橋由記：「一条朝以前の後宮について—資料と歴史物語」
江戸英雄：「場面と記述」

第9回研究会

- ・平成20年10月25日（土）
- ・国文学研究資料館第2会議室
- ・テーマ《王朝物語と歌ことばの変奏》
萩野敦子：「平敷屋朝敏の擬古文物語『若草物語』の生成とその研究について」
阿尾あすか：「正徹の『源氏物語』撰取」

【資料調査】

当館蔵の『江談抄』『源氏一滴集』のほか『源氏作例秘訣』（狩野文庫本・桃園文庫本）などの資料調査を実施した。

【研究成果】

上記研究会における基調報告と共同討議は、『平成20年度研究成果報告 物語の生成と受容④』として活字化（平成21年3月25日刊行）し、中古・中世の研究者・研究機関約300ヵ所に配布した。

なお、この報告書には、本年度より、研究会の際に展示検討した資料に関する報告を掲載し、また別冊附録として『源氏物語歌寄せ』の翻刻解題も公刊した。

【古典形成の基盤としての中世資料の研究】

プロジェクト代表者：武井協三

プロジェクト参加者：相田満、落合博志、齋藤真麻理、濱中修（国士舘大学教授）、三田明弘（日本女子大学准教授）、横田隆志（大阪大谷大学講師）、渡辺信和（同朋大学主任研究員）

プロジェクト補助者：谷川淳子（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

〔研究目的〕

20年度は、「古典キャラクター」を主題とする共同研究と、「書物の古典」を主題とする寺院収蔵典籍の全貌と形成過程について、国際シンポジウムにおける成果発表、国内学会における成果発表、大学との共同主催シンポジウム、及び館内の他のプロジェクトと連携した研究会を開催するなど、先進的で学際的な展開を積極的に進めることにより研究の深化を図った。また、『アジア遊学』118号（勉誠出版）の「古典キャラクターの展開」特集にその成果を掲載した。

(2) 活動記録

〔研究会〕

第1回研究会（「和刻本の研究」プロジェクトとの合同日程シンポジウム）

- ・総合テーマ 「テキストとキャラクターの問題系」
- ・日時 2008年7月23日（水）
- ・場所 国文学研究資料館
- ・発表者と演目
 1. 相田 満：「文字と故事のキャラクター—「朱博」故事をめぐる「鳥」と「鳥」の問題系」
 2. 渡辺信和：「聖徳太子をめぐる人のキャラクター—学智論—」
 3. 三田明弘：「夷堅志にみる宋代の歴史人物」

4. 勝俣 隆 (長崎大学教授):「天人のキャラを通して見た『あめわかみこ (七夕)』の構造」
5. 研究討議
6. 「和刻本の研究」プロジェクトによる研究発表 4 件
7. 合同研究討議

第 2 回研究会 (日本女子大学社会学部文化学科との共同主催シンポジウム)

- ・総合テーマ「ジェンダーと古典キャラクター」
- ・日 時 2008 年 11 月 15 日 (土)
- ・場 所 日本女子大学西生田キャンパス
- ・発表者と演目
 1. 相田 満:「古典キャラクターと人相占い—観相資料に見る女性たち—」
 2. 渡辺信和:「御伽草子に見られる女房のキャラクター—その女房名をめぐる—」
 3. 濱中 修:「京極御息所をめぐる中世の神話」
 4. 三田明弘:「中国の狐女と女鬼」
 5. 横田隆志:「媽祖のキャラクターとその受容」
 6. 日本女子大学文化学科教員等による研究発表 8 件

第 3 回研究会 (人間文化研究機構主催・国文研協賛 国際研究フォーラム)

- ・総合テーマ「アウトロー (outlaw) を考える研究フォーラム」
- ・日 時 2009 年 3 月 16 日 (月)
- ・場 所 人間文化研究機構会議室
 1. 相田 満:趣旨説明「アウトロー・小野篁」(Takamura Ono as the Outlaw)
 2. 濱中 修:「中世物語の中のアウトロー達—義経と弁慶をめぐる—」(The Outlaws in the Tales of the Middle Ages: Yoshitune and Benkei)
 3. EricDayre (IEA): “Shakespeare as staged by John Ford, inlaws and outlaws”
 4. 渡辺信和:「物部守屋をアウトローと認識する三層の規範 (国の法・神の法・仏の法)」(Three levels of models to recognize Moriya Mononobe to be Outlaw-The law of the country, the laws of God, the commandments of Buddhism)
 5. 三田明弘:「仏教説話におけるアウトロー」(The outlaw in Buddhism tales)
 6. 及川 茂: (日本女子大学)「ジョルジュ・ビゴーの描いた壮士の実像—明治のアウトロー—」(The real image of the desperado whom Georges Bigothe drew: The Outlaw of the Meiji era.)

[資料調査]

善通寺及び関連寺院収蔵の資料調査を行った。

[展示・シンポジウム]

5月13日 国際シンポジウム (於:台湾大学 [台北]) を開催した。

[研究成果]

[刊行物]

『アジア遊学』118号「古典キャラクターの展開」(勉誠出版)

[論文]

1. 相田 満:「古典人物絵画検索・画像分析のためのナビゲーションとオントロジー—歴史人物画像 (古典キャラクター) データベースの試み—」情報処理学会論文集「人

文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん）2008)」、pp. 147-154 (8)、2008. 12 に収録

2. 相田 満：「絵画検索・画像分析のための文字資産 — 歴史人物画像（古典キャラクター）データベースを例にして」画像電子処理学会第 36 回年次大会講演論文集、T1-2 (CD-ROM)、pp. 1-6 (6)、2008. 6 に収録
3. 相田 満：「地震と六国史」東洋研究 171（大東文化大学東洋研究所、2009. 1）に収録
4. 渡辺信和：「学哥論—聖徳太子をめぐる人のキャラクター—」東洋研究 169（大東文化大学東洋研究所）、pp. 43-66 (24)、2008. 11 大東文化大学東洋文化研究所 2008. 12) に収録
5. 勝俣 隆：「天人のキャラクターを通して見た『あめわかみこ（七夕）』の構造」（国語と教育 33、pp. 17-29 (13)、2008. 12 長崎大学国語国文学会）に収録

【学会における成果発表】

- ・日 時 2008 年 12 月 14 日（日）
- ・説話文学会 12 月善通寺例会
- ・場 所 香川県善通寺
- ・主 催 説話文学会（後援 国文学研究資料館）
- ・総合テーマ 善通寺の経典・聖教
講演 落合博志：「善通寺の聖教と説話資料・文学資料—展示解説を兼ねて」
- ・日 時 2008 年 5 月 24 日（土）
- ・日本研究国際学術研究会「教育・社会・言語・文学」
- ・場 所 中国文化大学（台北）
- ・主 催 中国文化大学日本語文学系・日本語文学研究所
 1. 相田 満：「地震と六国史—キャラクター生成装置としての六国史—」
 2. 三田明弘：「日中女性説話キャラクター論—『夷堅志』の位相—」
 3. 渡辺信和（特別講演）：「『聖徳太子伝暦』被注言語のオントロジー—『聖徳太子平氏伝雑勘文』をめぐる—」

【近世文芸の表現技法「見立て・やつし」の総合研究】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：井田太郎、佐藤恵里（当館客員教授・高知女子大学教授）、武井協三、加藤定彦（立教大学教授）、原道生（明治大学名誉教授）、延広眞治（帝京大学教授）、安原眞琴（立教大学非常勤講師）
金子俊之（早稲田大学非常勤講師）

プロジェクト補助者：紅林健志（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

昨年度末に八木書店から出版した研究成果物『図説「見立」と「やつし」』（279 頁）への、国内国外からの反響などを検討した。本年度の活動は、共同研究会と、国際的な研究成果の発表であった。AJLS 第 17 回大会（アメリカ日本文学会・カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学）や、EAJS 第 12 回国際大会（ヨーロッパ日本学会・イタリア、サレント大学）で発表を行った。また、年度末に研究報告書第 4 号を発行した。

(2) 活動記録

[研究会]

館外メンバーを含めての共同研究会は三回開催し、シンポジウム打ち合わせなどの館内研究会を二回開催した。

[共同研究会]

第1回共同研究会

- ・日 時 5月19日(月)
- ・場 所 国文学研究資料館
- ・プログラム

高橋則子：「見立てとやつし(試論)」

滝口富夫：『図説「見立」と「やつし」』の出版に関して

第2回共同研究会

- ・日 時 9月3日(水)
- ・場 所 国文学研究資料館
- ・プログラム

佐藤恵里：「やつし芸の粹取り」

井田太郎：「記号の盆栽一見立て・名所一」

第3回共同研究会

- ・日 時 12月26日(金)
- ・プログラム

金子俊之：「芭蕉発句の「見立て」表現—和歌・初期俳諧を視野に入れつつ—」

高橋則子：「口合・地口と芸能」

[館内共同研究会]

第1回館内研究会

- ・日 時 8月8日(金)
- ・場 所 国文学研究資料館
- ・プログラム

シンポジウム「芸能・文学における古典大衆化による笑い」の打ち合わせ

武井協三・佐藤恵里・ボナベントゥーラ ルペルティ・山下則子

第2回館内研究会

- ・日 時 9月20日(土)
- ・場 所 サレント大学
- ・プログラム

シンポジウム「芸能・文学における古典大衆化による笑い」の打ち合わせ

武井協三・佐藤恵里・ボナベントゥーラ ルペルティ・山下則子

[研究成果]

昨年度末に八木書店から出版した、4年間の研究成果『図説「見立」と「やつし」』(279頁、掲載図版159点、書名・人名索引付き)を契機として、海外での研究成果発表を2回行った。その詳細は以下のとおりである。

1. 山下則子・「江戸時代の見立とパロディー地口絵本を中心に—」AJLS第17回大会(アメリカ日本文学会・於カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学)

2. 「芸能・文学における古典大衆化による笑い—17世紀から現代へ—」EAJS 第12回国際大会
(ヨーロッパ日本学会・於イタリア、サレント大学)

山下則子：(「〈見立〉による笑い」)

佐藤恵里：(「〈俄〉と笑い」)

ボナベントゥーラ、ルペルティ：(「俳諧の笑い」と古典大衆化」)

武井協三：(「17世紀歌舞伎の〈笑い〉から現代の〈笑い〉へ」)

また、本年度の研究成果として、「平成20年度研究成果報告書 近世文芸の表現技法〈見立て・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書 第4号」(A4版2段組93頁)を年度末に刊行し、学会関係者等に配布した。内容は以下のとおりである。

佐藤恵里：「元禄歌舞伎の「やつし」芸—「をかし」との結びつき—」

井田太郎：「記号の盆栽」

佐藤恵里：第2回共同研究会記録「やつし芸の粋取り—「賤がしわざ」の面白さ—」

EAJS シンポジウム記録：「芸能・文学における古典大衆化による笑い」

3. 複合領域研究系

【開化期戯作の社会史研究】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：青田寿美、北村啓子、佐藤至子（当館客員准教授・日本大学准教授）、木戸雄一、山下則子、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、奥野久美子（別府大学講師）、加藤禎行（山口県立大学講師）、甘露純規（中央大学講師）、キャンベル、ロバート（東京大学教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、佐藤悟（実践女子大学教授）、須田千里（京都大学准教授）、高木元（千葉大学教授）、高橋昌彦（福岡大学准教授）、土屋礼子（大阪市立大学教授）、中丸宣明（山梨大学教授）、山田俊治（横浜市立大学教授）、山本和明（相愛大学教授）、山本良（埼玉大学准教授）

プロジェクト補助者：田口寛（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

前年度に引き続き、収集した資料を中心とした魯文著作の研究を分担して進め、それに基づいて研究会を開催し、目標のひとつである魯文著作解題作成に向けた研究を前進させた。

(2) 活動記録

[研究会]

今年度開催した研究会は以下のとおり。

- ・日 時：2008年7月19日（土）、20日（日）
- ・場 所：国文学研究資料館第2会議室

(19日)

谷川恵一：『将門一代記』について

11:00 木戸雄一：『楠公一代記』再考

13:00 佐藤至子：『弓張月春廼宵栄』における魯文担当箇所について

14:00 神林尚子：『神稻鍋笠松』について

15:30 宮脇真理子：『福和内笑門新舗』について（承前）

16:30 佐々木 亨：『子宝習字草』における神奈垣魯文

(20日)

10:00 青田寿美：魯文×膝栗毛物の商品力(2) — 「滑稽江戸栗毛」をめぐって—

11:00 福井辰彦：『平良門蝦蟇物語』について

13:00 山本和明：明治三年魯文存疑本考

14:00 高木 元：魯文の艶本について

15:30 谷川恵一：奎星帖について

16:30 打合せ

[仮名垣魯文研究会 11月例会]

- ・日 時：10月31日（金）14:00
- ・場 所：国文学研究資料館第1会議室
- ・プログラム

中丸宣明：「忠勇景清全伝」について

[大会]

- ・日 時：1月10日（土）、11日（日）
- ・場 所：国文研第2会議室

(10日)

- 10:00 谷川恵一：『釈迦御一代記』
- 11:00 中丸宣明：『教訓五常近道』
- 13:00 須田千里：『高橋阿伝夜刃譚』
- 14:00 福井辰彦：『名広沢辺萍』
- 15:30 佐藤至子：『桜荘子後日文談』『増補双級巴』『加賀山曾我笠松』『当九字万成曾我』
『仮名手本忠臣蔵』

(11日)

- 10:00 木戸雄一：『佐野志賀蔵一代記』の書誌について
- 11:00 青田寿美：『かちかち山』附・『滑稽江戸栗毛』補遺
- 13:00 神林尚子：『おもくろだぬ記』
- 14:00 山本和明：『成田山御利生記』追補ならびに『百猫画譜』に関する賞書』
- 15:30 高木 元：『魯文の序文〈拾遺〉』

【日本文学関連電子資料の構成・利用の研究】

プロジェクト代表者：古瀬蔵

プロジェクト参加者：相田満、野本忠司、青田寿美、大友一雄、大内英範（当館機関研究員）

プロジェクト補助者：大野順子（当館リサーチアシスタント）、丹羽みさと（当館リサーチアシスタント）

(1) 概 要

日本文学研究者にとって有用な情報を網羅した電子資料群の構築と利用環境の高度化に向けて、公開データベースシステムの現状調査、新規トピックの蔵書印に関する基本データ収集と実験システム構築、古典学を中心とした時間情報提示や縦書き表示など既存データベースの充実化に取り組み、情報処理学会シンポジウムなどで研究成果の一部を発表した。

(2) 活動記録

[資料調査]

- ・日本文学関連電子資料の新しいジャンルとなる蔵書印について、大阪大学附属図書館忍頂寺文庫にて資料調査と収集を実施。
- ・日本文学研究における電子資料利用の有効性の題材に選定した大島本源氏物語について、重要文化財である柏木巻の巻末削除痕や賢木巻の行間擦り消し跡の状況を京都文化博物館にて調査を実施。

[研究成果]

- ・新規データベースの蔵書印について、印文データ約7000件と印影データ約1400件を収集し、検索システムの試験版を作成。
- ・既存データベースの古事類苑について、完全XML化と縦書きHTML化により表示機能を高度化。
- ・既存データベースの歴史人物画像データベースを機能拡充し、画像電子処理学会年次大会や情報処理学会シンポジウム「じんもんこん」において研究発表。

- ・『大日本地名辞書』から広がる地名オントロジの可能性、「アジア遊学 113」(勉誠出版)を執筆。
- ・尾州家河内本帚木の本文と校訂、『源氏物語の新研究 表現と本文を考える』(新典社)を執筆。

[その他]

国文学研究資料館の公開データベースの窓口である電子資料館の利便性向上を目的として、web ページデザインを更新。

4. アーカイブズ研究系

【総括】

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、わが国のアーカイブズの特質の解明及びその保存・活用のための技法と理論を確立することを目的として、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム構築の研究を推進することに重点を置き、次の三つの共同研究プロジェクト、つまり①経営と文化に関するアーカイブズ研究、②東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、③アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究、を展開している。

いずれも平成 16～21 年度の 6 年計画の 5 年目であり、これまでの研究成果をもとに次期研究プロジェクト構想を検討しているところである。

プロジェクト研究①は、史料館以来の伝統的な史料学研究を引き継いだもので、②は東アジアの比較史料学研究とアーカイブズ資源の共有化に関する研究であり、③は史料群情報の電子化と国内的国際的情報共有システムの研究であり、アーカイブズ学研究を基盤に三つのプロジェクトが相互に相補う関係に設定されている。

共同研究の進展という立場から、大学・自治体等と連携して研究を進め、歴史学、情報学、美術史学などを専攻する大学教員等の調査・研究活動への参加を得ている。また、研究機関研究員・リサーチアシスタント等若手研究者を調査活動や研究会に参加させ、報告させるなど、その育成を積極的に図っている。

なお、『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』第 5 号を刊行し、研究成果を発表した。

①の研究成果として、論文集『近世・近代の地主経営と地域社会文化環境—地域名望家アーカイブズの研究—』(名著出版)を刊行した。②の研究成果として、論文集『中近世アーカイブズの多国間比較』(岩田書院)を刊行した。

【経営と文化に関するアーカイブズ研究】

プロジェクト代表者：高橋実

プロジェクト参加者：山田哲好、青木睦、岡部真二(茨城県立歴史館主任研究員)、籠橋俊光(東北歴史博物館学芸員)、門前博之(明治大学教授)、神谷智(愛知大学准教授)、木塚久仁子(明治大学教授)、菅豊(東京大学教授)、高橋美貴(東京農業大学准教授)、田島達也(京都市立芸術大学講師)、伊達仁美(京都造形芸術大学准教授)、多和田雅保(横浜国立大学准教授)、浪川健治(筑波大学教授)、守屋正彦(筑波大学教授)、山崎圭(中央大学准教授)、山本英二(信州大学准教授)、横山憲長(長野県立短期大学教授)、脇野博(秋田工業高等専門学校教授)

プロジェクト補助者：高橋伸拓(当館リサーチアシスタント)

(1) 概要

館蔵史料のうち近世・近代の地主・名望家及び実業家の経営と文化に関する史料を中核とし、現地に保存されている関連史料を対象に含めてアーカイブズ学的研究を進めている。それにより地域文化の多様性を総合的にとらえ直し、豊かな地域史像を示すとともに、アーカイブズ学研究の進展を図ることを目的としている。本研究は(1)～(3)の三つの柱を立てて進めてきた。

(2) 活動記録

〔資料調査〕

(1) 信濃国高井郡東江部村山田家文書を中心とする調査・研究

館蔵の山田家文書及び中野市の山田家文書を調査・研究をもとにした研究論文集『近世・近代の地主経営と地域社会研究』を刊行した。そして論文執筆者・館員による合評会を開催して(平成21年2月2日)、これまでの調査・研究を総括するとともに、次期中期計画策定の準備を進めた。

(2) 常陸国行方郡玉造村大場家文書を中心とする調査・研究

館蔵史料の常陸国行方郡牛堀村須田家と、同じく水戸藩南領の大山守を代々勤めた大場家の文書を対象に総合的調査を実施している。引き続き水戸藩の中間支配機構としての大山守の歴史的・意味などについての分析を進めている。平成21年度に調査・研究報告書を刊行する予定で、諸準備を進めている。

(3) 日本実業史博物館資料の調査・研究及び交流・公開

渋沢敬三が史料館へ寄贈した「日本実業史博物館」準備室旧蔵資料(略称:実博資料)に関する研究を引き続き実施している。本研究では、渋沢敬三の博物館設立の基本指針と計画遂行に関わる文書である「一つの提案」を分析の基軸に据え、準備室日誌、収集資料登録台帳や領収書など資料群形成過程の解明に欠かせない準備室アーカイブズに対するアーカイブズ学的手法による検討を主眼として研究を進めている。さらに人間文化研究機構連携研究として「『日本実業史博物館』資料の高度活用」(研究代表:青木睦)研究の中間報告書「資料編」と「幻の博物館の紙」展示のDVD版を発行した。また、シンポジウム「日本実業史博物館からのメッセージ」(人間文化研究機構連携研究「『日本実業史博物館』資料の高度活用」報告)を開催した(3月13日、国文学研究資料館大会議室)。

〔資料調査〕 中野市・山田家の書籍・絵画・美術品関係資料の調査を2回。

〔展示・シンポジウム〕

展示

「明治開花期の錦絵一篤姫が生きた時代一」

・日時 2008年8月11日(月)～9月5日(金)

〔シンポジウム〕

青木 睦:「連携研究「日本実業史博物館資料の高度活用」最終報告—展示・映像・データベース公開までの道のり」

金山正子:「日本実業史博物館資料の状態調査最終報告」

田島奈都子:印刷博物館(姫路市立博物館)「美人のつくりかた—石版から始まる広告ポスター展」報告

渋沢史料館:「渋沢史料館と「日本実業史博物館資料」

「復活 日本実業史博物館」渋沢敬三没後50年の2013年に向けて検討会

〔研究成果〕

研究論文集『近世・近代の地主経営と地域社会研究』(名著出版、平成21年12月、国文学研究資料館研究成果促進制度による助成)

【東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究】

プロジェクト代表者：渡辺浩一

プロジェクト参加者：加藤聖文、安藤正人（学習院大学教授）、臼井佐知子（東京外国語大学教授）、岡崎敦（九州大学准教授）、蔵持重裕（立教大学教授）、栗原純（東京女子大学教授）、高橋一樹（国立歴史民俗博物館准教授）、永島広紀（佐賀大学准教授）、林雄介（明星大学准教授）、松田利彦（国際日本文化研究センター准教授）、三浦徹（お茶の水女子大学教授）

プロジェクト補助者：崔誠姫（当館リサーチアシスタント）

（1）概要

多国間比較研究班では、研究のまとめとなる論文集『中近世アーカイブズの多国間比較』を岩田書院から刊行した。

植民地アーカイブズ研究班では、韓国・台湾から研究者を招聘して国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ」を開催した。

（2）活動記録

[研究会]

- ・日 時 9月2日（火）13時30分～18時
- ・場 所 国文学研究資料館
- ・発表者 渡辺浩一
- ・題目（内容） 論文集『中近世アーカイブズの多国間比較』序文の検討
ICA クアラルンプール大会セッション「伝統的東アジアのアーカイブズ」報告

[展示・シンポジウム]

国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ—日韓台アーカイブズ資源共用化の可能性—」

- ・日 時 11月30日（日）
- ・場 所 立教大学太刀川記念会館

日本・韓国・台湾における日本統治時代のアーカイブズの現状と各国での調査・公開への取り組みについて6名の報告を基に、参加者とのあいだで活発な議論を行った。

[研究成果]

論文集『中近世アーカイブズの多国間比較』（岩田書院、2009年3月）

[その他]

なし

【アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究】

プロジェクト代表者：大友一雄

プロジェクト参加者：五島敏芳、坂口貴弘（当館機関研究員）、藤吉圭二（当館客員准教授・高野山大学准教授）、前川佳遠理、青山英幸（駿河台大学非常勤講師）、安倍尚紀（東京福祉大学専任講師）、戸森麻衣子（元当館機関研究員）、丸島和洋（中央大学非常勤講師）、宮崎克則（九州大学准教授）、村越一哲（駿河台大学教授）、森本祥子（国立国語研究所研究員）、安澤秀一（当館名誉教授）、安永尚志（当館名誉教授）

プロジェクト補助者：榎本博（当館リサーチアシスタント）

(1) 概要

今年度は3回の研究会を開催し、プロジェクトの研究成果をまとめた論文集『アーカイブズ情報の共有化に向けて』の刊行に向けて、全体構成と各メンバーの執筆部分につき集中的な討議を進めた。また、総合研究大学院大学葉山高等研究センターのプロジェクトとの合同研究会を公開で行い、研究機関におけるアーカイブズ情報の資源化の方法について検討した。さらに、レコード・アーカイブズ記述に関する最近の国際標準についての研究会を公開で開催した。アーカイブズ資源化研究を進めた。

(2) 活動記録

[研究会]

第1回研究会

- ・日程 8月4日(月)
- ・場所 国文学研究資料館第3会議室

プログラム

- 1 大友一雄氏
「日本における記録史料保存機関の現状と課題」
- 2 安倍尚紀氏
「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察—概念としての情化—」
- 3 藤吉圭二氏
「政府のアカウントビリティとアーカイブズ—PROVの成立と発展を事例として—」
- 4 村越一哲氏
「表計算ソフトを利用した史料目録EAD化のためのツール」
- 5 丸島和洋氏
「EAD/XMLのウェブ上での表示とXSL—国文学研究資料館の事例から—」
- 6 森本祥子氏
「国立国語研究所における研究資料の保存と活用について：集中管理の実現とEADによる資料記述の模索」
- 7 坂口貴弘氏
「諸外国におけるアーカイブズ情報共有化の現状とその手法」
- 8 共同討議

第2回研究会

- ・日程 10月30日(木)
- ・場所 国文学研究資料館第1会議室
- ・発表者 五島敏芳助教
- ・題目(内容)「全国アーカイブズ総合目録のデータ構築技法」
(総合研究大学院大学葉山高等研究センター共同研究プロジェクト「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」との共催)

第3回研究会

- ・日程 1月21日(水)
- ・場所 国文学研究資料館第3会議室
- ・発表者 高橋実・山田哲好
- ・題目(内容)「松代真田家文書の伝来と史料群構造」

[展示・シンポジウム]

公開研究集会

「研究記録のアーカイブズ—研究過程の検証と新たな情報資源化のために—」

- ・日 程 2月21日(土)
- ・場 所 国文学研究資料館大会議室

プログラム

- 1 佐藤博樹氏(東京大学社会科学研究所教授)
「実証的社会科学研究とデータアーカイブズの役割」
- 2 高岩義信氏(筑波技術大学教授)
「自然科学系分野の研究記録保存の課題」
- 3 高橋 実氏(国文学研究資料館アーカイブズ研究系研究主幹)
「旧史料館レコーズの整理と公開について」
- 4 共同討議
(日本アーカイブズ学会との共催)

[公開研究会]

日 程 3月7日(土)

場 所 国文学研究資料館

タイトル

「国際標準 (ISAD(G)2nd/ISAAR(CPF)2nd/ISDF) による組織構造体と機能構造体としてのフォンドの統一的把握—アーカイブズ・レコード・マネージメントにおけるアーカイバル・コントロール構築のために—」

- 1 青山英幸氏
「組織構造体と機能構造体としてのフォンド概念の成立背景とその構造」
- 2 吉田千絵氏
「レコード・マネージメントにおける国際標準の適用」
- 3 共同討議

[研究成果]

①に関わり収蔵史料信濃国松代真田家文書などを中心に文書群の組織構造に関する研究を進め、その成果をアーカイブズ研究系の研究会で発表し、それに基づき史料目録第88・89集を刊行した。

②に関わり EAD に関連する外国文献の翻訳を前年度に引き続き進めた。その成果として、機関研究員坂口貴弘が「北米におけるアーカイブズ記述規則の特性：図書館界の目録規則との比較をもとに」(『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』No.5)を公表した。

③に関わり日本全国の諸機関の協力を得て集約してきた全国の収蔵公開機関情報、収蔵公開機関が収蔵する史料群情報について分析を進めた。また、研究成果に基づき集約情報を公開する「史料情報共有化データベース」のデータを更新した。さらに、当館収蔵史料目録のデータベース公開に向けて、既刊の目録データの分析とデータベース構築方法の検討を進めた。

5. 公募共同研究

【川瀬一馬氏旧蔵古典籍写真資料の調査と研究】

研究者代表：岡崎久司（九州大学客員教授）

研究参加者：井田太郎、小川剛生、落合博志、久保木秀夫、岡雅彦（当館名誉教授）、小秋元段（法政大学准教授）、佐藤道生（慶応義塾大学教授）、高田信敬（鶴見大学教授）、堀川貴司（鶴見大学教授）、間島由美子（国立国会図書館主査）、村木敬子（大東急記念文庫学芸員）、和田恭幸（龍谷大学准教授）

（1）概要

写真の電子カード作成は昨年度にひとまず終了し、DVDに焼き付けたものをメンバー全員に配付してそれぞれの調査成果を集約する作業を開始したが、今年度も引き続き該作業を行った。傍ら、資料館においてデータの不備を補正する作業を進めた。写真の枚数が膨大なため未だ不備な点は多々残っているが、全体像の把握や特に価値の高い資料の抽出などは概ね果たすことができた。

（2）活動記録

[研究会]

- ・日 時 2009年3月4日（水）
- ・場 所 大東急記念文庫
- ・プログラム
 1. 落合博志：「江戸初期の出版事情一面—古活字『本能寺前版』考」
 2. 堀川貴司：「大英図書館所蔵五山版について」
 3. 調査報告・意見交換及び打合せ

[資料調査]

本共同研究として独立の資料調査は行っていないが、平成20年4月から11月にかけて科研の調査として実施した大東急記念文庫所蔵五山版の調査において、川瀬氏旧蔵の五山版写真と関わる版本を多数披見し、本共同研究にも活用できた。

[研究成果]

小林元段：「要法寺版をめぐる覚書」、『藝文研究』第95号、平成21年3月

【近世風俗文化の形成—忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺—】

研究者代表：飯倉洋一（大阪大学教授）

研究参加者：青田寿美、内田宗一（東京家政学院大学専任講師）、尾崎千佳（山口大学准教授）、川端咲子（神戸女子大学非常勤講師）、近衛典子（駒澤大学教授）、福田安典（愛媛大学教授）、山崎ゆみ（京都女子大学准教授）、山本和明（相愛大学教授）、鷲原和良（仏教大学非常勤講師）

（1）概要

今年度は、2回の研究会を開催し、研究会メンバーによる調査報告を行ったほか、各回でゲストスピーカーによる近世風俗文化と務の位置づけを報告していただき、問題点の整理ならびに考究の進展を図った。また3月に洲本市の淡路文化史料館および務ゆかりの引撰寺で現地踏査を行い、貴重な情報・資料を収集した。忍頂寺務草稿類の刊行に向け、草稿1点の翻字作業を完了した。

(2) 活動記録

[研究会]

- ・日程 9月5日
- ・場所 国文学研究資料館
- ・発表者 川端咲子・飯倉洋一・鹿倉秀典(青山学院短期大学教授・ゲスト)
- ・題目(内容)
 - 1 神戸市立図書館蔵忍頂寺務旧蔵書について 川端咲子
 - 2 忍頂寺務『近代歌謡考説』とその周辺 飯倉洋一
 - 3 忍頂寺文庫と音曲研究 鹿倉秀典

3月7日 大阪大学にて第2回研究会を実施

発表者……福田安典・鷺原知良・肥田皓三(元関西大学教授・ゲスト)

[資料調査]

- ・大阪大学・国文学研究資料館・神戸市立図書館・成田山仏教図書館など。

[研究成果]

- ・ホームページに今年度の成果を公表予定。

[その他]

3月8日 淡路文化史料館(洲本市)を中心とする淡路島調査。



情報事業センター

1. 調査収集事業部

【総括】

調査収集事業部では、今年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（100ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルム又はデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。収集については、予定点数の半分強の成果となった。

昨年度に引き続き本年度も「リプリント日本近代文学」第5期40点を刊行した。

なお、調査収集の成果を共有し、更に広く社会に還元するため、平成18年度に始まった基幹研究「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」は、本調査収集事業の成果を基盤とする共同研究として、順調な進捗状況を見せている。

【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

（1）日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成20年度においては、約9,300点の調査、約2,170点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計96ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計4カ所）を行った。

（2）日本古典籍資料調査データベース

平成19年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,000件、書誌データ約9,000件の入力を行った。現在約144,000件が利用に供されている。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

（3）調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』29号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第5期40点を刊行した（来年度は、第6期40点を刊行の予定である）。

（4）調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果はこれまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、今後それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度より当館の基幹研究として「文学資源の総合研究」という研究テーマのもとに「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」の共同研究が始まり、本館の基幹をなす当事業との関連のもと、精力的な展開を示している。それぞれ調査員が共同研究者として加わり、5年間の共同研究を行うもので、本年はその3年目を迎えた。また、調査収集に関わる研究成果を調査員に広く共有してもらうために、平成20年度国文学文献資料調査員会議において、佐賀大学特任教授井上敏幸氏に講演をお願いした。演題は「大名家の文化研究と調査収集」で、こちらは本館の公募共同研究の成果に基づくものである。研究報告書は『鹿島鍋島藩の政治と文

化』(平成 21 年 3 月)として刊行されている。

【アーカイブズ調査・収集】

(1) 目録による史料群所在情報の調査

全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

(2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、信濃国松代真田家文書(9)、(10)を収録した『史料目録』第 88 集、第 89 集を刊行した。

(3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、昨年に手書き目録を電子化してデータベースを作成したものを活用して調査の実施基盤を整備した。

松江藩関係の調査は、松江市との共同調査として、元松江藩家老三谷家の調査を実施した。

『史料目録』に関連しての調査を実施した。

2. 電子情報事業部

【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用を図り、研究及び事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関等との連携を進めている。

情報システム環境は、第7期情報システム計画（平成17—21年度）の第4年度に当たり、平成18年2月1日に第6期情報システムからリプレース後、現在順調に稼働している。

一年を通じて24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

今年度は、新たに4本のデータベースを公開し、現在27本のデータベースの公開を滞りなく行っている。データ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、学術情報課に属するシステム管理係と学術情報係が当たっている。また、データベースサービスシステムの運用管理を行っている。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

デジタル画像公開に関して、従来から公開していた近代画像及び収集画像（愛媛大学附属図書館、富加町郷土資料館）に加えて、今年度は、「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」からは館蔵貴重書、「コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録」からはケンブリッジ大学附属図書館所蔵の一部資料のデジタル画像の一般公開を開始した。

電子情報事業部において、年度計画に応じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充に寄与した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、高い社会性と公開性を達成した。

【電子情報事業部の運営】

（1）組織体制と運営

部長（古瀬蔵教授）を置き、副部長（野本忠司准教授）他、9名の教員の体制により事業を運営し、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

借用端末入れ替えのための仕様策定委員会等を開催し、導入を決定した。

各月1回、定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。より専門的な事項については、専門作業部会を設け、審議した。

（2）情報システムの運用管理

情報システムは、UNIX サーバ及び Windows サーバによる分散型システムと館内 LAN（基幹系 1GB、支線系 100MB）に接続されたクライアント PC とで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

平成18年2月1日より、第7期情報システムが本格的に稼働を開始した。管理運用体制として、部長、副部長、他9名の教員が当たり、実務、事務処理はシステム管理係並びに学術情報係が担った。

なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、副部長、システム管理系の指示により、外注SEに分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、これらそれぞれについて、ほぼ365日24時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

平成19年2月1日より研究系クライアントPC（88台）及びプリンター（26台）の運用を開始した。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各PCデータの自動バックアップ等の仕組みを取り入れた。

平成20年2月1日より事務系クライアントPC（37台）及びプリンター（8台）の運用を開始した。データ保守を重視し、各PCのデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れた。

（3） ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第7期情報システムでは、とくにセキュリティ対策に万全を期すため、嚴重な接続機器の管理を個々に行っている。また、セキュリティと利便性を両立させるため、スパムファイアウォールとSSL-VPNを運用している。

（4） 情報資源の運用管理

公開されている27本のデータベースの年間を通じて切れ目のない24時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

（5） 情報サービスの向上

目的のデータベースへのアクセス数向上を進めるため、アクセス元情報等の利用統計分析、及び、ウェブページのデザイン等の変更を行った。

【個別事業の実績、評価】

（1） 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行った。

① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、部長の指揮の下、システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注SEにより行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、及びネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない（システムの停止は、計画停電のために3回、パッチ一括適用のために1回、合計4回あった）。

一方、PC系、プリンタ系の障害等については、学術情報課システム管理係及び業者の保守窓口による対応を図った。

② 共同利用の推進

共同利用等の内容、水準に関する目標を達成するための措置として、資源共有化システムの管理運用を行った。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センターとの安定的なシステム接続運用を行った。

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的に関わり、その責務を果たしている。

(2) データベースの管理運用

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

当館ホームページ「電子資料館」のページから公開しているデータベースは以下のとおりである(各データベースの概要は付表1参照)。

- 図書・雑誌所蔵目録(OPAC)
- マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録(これまで公開していたマイクロ資料・和古書目録データベースを高次化したデータベース)
- 国文学論文目録データベース
- 日本古典籍総合目録
- コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録
- 日本古典資料調査データベース
- 近代文献情報データベース(近代書誌・近代画像データベース、明治期出版広告データベース)
- 古筆切所収情報データベース
- 和刻本漢籍総合データベース
- 連歌・演能・雅楽データベース
- 古典学統合データベース(芳賀人名・地下家伝)*
- 伝記解題データベース*
- 日本文学国際共同研究データベース(イタリア論文データベース、日本学研究データベースなど)*
- 収蔵アーカイブズ情報データベース
- 「史料所在情報・検索」システム
- 史料情報共有化データベース
- 伊豆韮山江川家文書データベース
- 館蔵神社明細帳データベース*
- 日本古典文学本文データベース
- 二十一代集データベース
- 吾妻鏡データベース
- 絵入り源氏物語データベース
- 古事類苑データベース
- 歴史人物画像データベース
- 新奈良絵本画像データベース
- 実業史絵画データベース
- 館蔵和古書画像データベース

〈注〉 *印を付した4本のデータベースは、今年度公開を開始。

(データベース利用統計は付表2を参照)。

上記の各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。とくに、知的財産権に関わる権利関係を明確にした。また、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成に協力し、現在、公開中、試験公開中等の当館の約50本のデータベースが収録されている。

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

書 誌 目 録	図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約 97,700 件、雑誌約 6,700 タイトル。
	マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録	当館所蔵のマイクロ/デジタル資料 (国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍をマイクロ・デジタル撮影し、収集した資料) と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書のデジタル画像ヘリンクあり (一部)。マイクロ/デジタル資料約 208,300 件、和古書約 14,400 件。
	国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成 18 年) の目録データベース。約 445,000 件。
	日本古典籍総合目録	日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ/デジタル資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約 456,000 件、著者約 67,000 件、書誌約 455,000 件。
	コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。一部原本画像の公開もあり。約 12,000 件。
	日本古典資料調査データベース	当館が 30 年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像も参照可能)。約 133,000 件。
	近代文献情報データベース	「近代書誌・近代画像データベース」及び「明治期出版広告データベース」(平成 10 年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開)。書誌約 19,600 件、画像約 900 件、出版広告約 23,000 件。
	古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約 23,000 件。
	和刻本漢籍総合データベース	当館収集のマイクロ資料中の和刻本の字跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース
	連歌・演能・雅楽データベース	寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース
	古典学統合データベース (芳賀人名・地下家伝)	日本の古典研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一 (1867-1927) 編『日本人名辞典』(1914) と [三上景文著; 正宗敦夫 (1881-1958) 編纂校訂『地下家伝』(日本古典全集刊行会, 1937.9-1938.8) 6 冊をデータベース化したものを搭載。
	伝記解題データベース	当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに記載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収録されているかをデータベース化
	日本文学国際共同研究データベース	科研費基盤研究 (S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等
	収蔵アーカイブズ情報データベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要データベース及び資料目録データベース
	「史料所在情報・検索」システム (試験公開)	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース (詳細版は利用登録制)

	史料情報共有化データベース
	国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報のデータベース（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）
	伊豆韮山江川家文書データベース
	このデータベースは、財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開するものです。
	館蔵神社明細帳データベース
	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187件
本文	日本古典文学本文データベース（試験公開）
	『日本古典文学大系』（旧版、岩波書店刊）の全作品（100巻580作品）の本文（テキスト）データベース（利用登録制）
	二十一代集データベース
	原本テキストデータベース（当館所蔵の正保版本を底本とし、詞書・作者・和歌・左注・メモ等からの検索が可能）
	吾妻鏡データベース
	原本テキストデータベース（当館所蔵の寛永3年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能）
	絵入り源氏物語データベース
	原本テキストデータベース（当館所蔵の承応3年版本を底本とし、ブラウザ機能による全文検索が可能）
	古事類苑データベース
	完成から約1世紀が経とうとしているにもかかわらず、日本最大規模の地位を今なお保ち続けている百科事典『古事類苑』のデータベース。「天部」試験公開版、全文検索が可能となったバージョン（横書き）『天部』『歳時部』と、『地部一』（国際日本文化研究センター作成）を公開。
画像	歴史人物画像（古典キャラクター）データベース
	国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像（約3100名・4700件）のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。
	新奈良絵本画像データベース
	当館所蔵の奈良絵本（11本）の原本画像データベース（翻刻付）
	実業史絵画データベース
日本実業史博物館設立準備室旧蔵絵画データベース	
館蔵和古書画像データベース（試行版）	
当館所蔵の和古書（写本・版本等）の画像データベース。簡易目録と連携し、和古書約5,600件の検索と画像閲覧が可能。	

（平成21年2月末現在）

付表2 平成20年度 データベース利用統計 付：データベースサービスシステム総合窓口業務統計

※（ ）は前年同月値

		20年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	合計
(1) 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	検索件数	18,132 (14,890)	19,700 (21,383)	22,973 (21,649)	26,103 (22,045)	23,038 (23,290)	22,271 (21,827)	24,500 (13,326)	24,358 (18,043)	23,159 (11,377)	22,911 (9,627)	16,988 (3,942)	14,562 (6,150)	258,695 (187,529)
(2) マイクロ/デジタル資料・和 古書所蔵目録	検索件数	6,501 (—)	6,745 (—)	6,837 (—)	7,778 (—)	7,658 (9,601)	6,402 (8,879)	8,069 (6,054)	8,075 (4,354)	7,589 (3,983)	7,729 (4,409)	5,469 (3,231)	5,153 (4,063)	84,005 (44,574)
(3) 国文学論文目録データベース	検索件数	85,383 (69,543)	131,259 (93,776)	106,359 (88,008)	95,286 (84,488)	63,381 (59,406)	82,226 (67,782)	108,034 (92,545)	96,701 (100,851)	98,927 (83,145)	85,831 (72,140)	51,615 (33,851)	59,098 (38,255)	1,064,100 (883,790)
(4) 日本古典籍総合目録	検索件数	39,570 (32,163)	44,399 (36,537)	52,450 (40,414)	54,777 (36,668)	45,364 (34,214)	37,950 (42,503)	46,139 (44,119)	42,528 (34,067)	38,650 (35,461)	42,285 (41,138)	33,400 (38,967)	34,869 (43,883)	512,381 (460,134)
(5) コーニッキー版 欧州所在日 本古書総合目録	検索件数	8,996 (179)	6,815 (179)	3,958 (358)	6,433 (254)	5,899 (624)	1,514 (2,692)	6,704 (3,831)	1,208 (1,813)	1,513 (3,457)	6,290 (4,716)	6,621 (2,837)	11,472 (11,040)	67,423 (32,007)
(6) 日本古典資料調査データベ ース	検索件数	1,862 (1,479)	1,538 (1,570)	1,797 (2,673)	1,866 (2,509)	1,365 (7,179)	1,474 (1,477)	2,298 (1,733)	2,361 (1,946)	2,319 (1,276)	2,422 (1,392)	1,377 (1,444)	2,682 (1,176)	23,361 (25,854)
(7-1) 近代文献情報データベ ース (近代書誌・近代画像データ ベース)	検索件数	1,129 (705)	1,530 (873)	1,247 (961)	1,489 (654)	965 (891)	648 (949)	783 (1,212)	763 (2,822)	939 (1,718)	2,647 (2,560)	1,685 (2,082)	2,319 (1,494)	16,144 (16,921)
(7-2) 近代文献情報データベ ース (明治期出版広告データベ ース)	ページ閲覧数	212 (192)	227 (200)	231 (247)	239 (160)	— (143)	— (79)	— (160)	— (185)	— (156)	426 (219)	430 (67)	381 (140)	2,146 (1,948)
(8) 古筆切所収情報データベ ース	検索件数	218 (120)	260 (256)	188 (384)	160 (171)	252 (524)	242 (304)	222 (221)	433 (464)	271 (222)	343 (223)	258 (217)	163 (172)	3,010 (3,278)
(9) 和刻本漢籍総合データベ ース	検索件数	215 (—)	253 (—)	287 (—)	320 (—)	222 (—)	205 (—)	289 (—)	221 (—)	322 (133)	364 (554)	280 (305)	217 (333)	3,195 (1,325)
(10) 連歌・演能・雅楽データ ベース	検索件数	1,347 (—)	663 (—)	479 (285)	315 (901)	343 (937)	557 (560)	891 (597)	713 (1,900)	1,092 (896)	2,420 (1,516)	1,772 (1,720)	2,084 (1,729)	12,676 (11,041)
(11) 収蔵アーカイブズ情報デ ータベース	利用回数	4,752 (6,597)	4,260 (8,148)	3,586 (3,716)	4,310 (4,013)	3,328 (2,522)	2,812 (3,668)	3,758 (4,131)	5,815 (2,891)	4,014 (3,375)	3,969 (5,051)	4,170 (3,310)	4,333 (3,087)	49,107 (50,509)
(12) 「史料所在情報・検索」シ ステム	検索件数	147 (238)	214 (189)	172 (167)	141 (246)	10 (186)	179 (222)	183 (652)	193 (173)	197 (209)	144 (180)	162 (74)	136 (95)	1,878 (2,631)
(13) 史料情報共有化データベ ース	検索件数	329 (371)	345 (460)	556 (605)	837 (554)	667 (595)	268 (497)	1,060 (441)	1,001 (1,134)	614 (610)	636 (333)	332 (341)	555 (306)	7,200 (6,247)
(14) 伊豆韭山江川家文書データ ベース	利用回数	1,570 (4,105)	294 (5,964)	431 (984)	939 (1,621)	3,441 (498)	346 (1,183)	727 (642)	648 (1,046)	663 (944)	839 (1,632)	732 (1,272)	595 (475)	11,225 (20,366)

		20年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月	合計
(15) 日本古典文学本文データベース	新規登録者数	28 (47)	27 (60)	31 (51)	33 (52)	18 (13)	17 (12)	20 (18)	19 (27)	28 (19)	23 (18)	14 (15)	21 (12)	279 (344)
	検索件数	2,281 (2,863)	2,950 (5,215)	3,912 (5,302)	3,206 (3,528)	2,494 (3,089)	4,350 (3,464)	3,603 (5,202)	4,357 (5,087)	3,562 (4,343)	3,477 (3,484)	2,939 (1,678)	2,065 (1,707)	39,196 (44,962)
(16) 二十一代集データベース	*ログ収集方法について検討中													
(17) 吾妻鏡データベース	*ログ収集方法について検討中													
(18) 検索件数絵入り源氏物語データベース	*ログ収集方法について検討中													
(19-1) 検索件数古事類苑データベース	試験公開版 ページ閲覧数	9,818 (6,301)	12,182 (6,280)	15,783 (9,385)	16,401 (5,567)	14,072 (4,161)	9,495 (4,771)	13,698 (4,394)	15,008 (7,784)	15,547 (17,582)	14,643 (18,130)	12,570 (14,543)	22,870 (9,353)	172,087 (108,251)
(19-2) 古事類苑データベース *2008.12.15公開	全文検索版 検索件数		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	185	289	353	239	1066	
(20-1) 歴史人物画像データベース	旧ページ ページ閲覧数	51,975 (36,797)	60,391 (44,595)	69,236 (61,488)	68,732 (60,777)	57,156 (53,475)	33,402 (35,412)	45,357 (38,395)	44,198 (38,509)	39,633 (40,930)	33,473 (52,205)	24,611 (47,080)	33,611 (46,417)	561,775 (556,080)
(20-2) 歴史人物画像データベース *2008.12.15公開	検索件数			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1189	1768	943	1362	5262
(21) 新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数	66,920 (91,819)	93,185 (67,126)	81,217 (106,760)	122,218 (95,197)	60,569 (29,944)	63,563 (61,339)	80,074 (61,908)	72,475 (58,780)	72,302 (63,757)	58,356 (102,421)	55,469 (68,117)	48,924 (59,885)	875,272 (867,053)
(22) 実業史絵画データベース	利用回数	6,367 (5,602)	6,628 (8,072)	2,242 (7,228)	5,325 (7,198)	5,631 (7,566)	2,454 (1,285)	7,133 (2,788)	6,331 (7,954)	5,986 (4,596)	5,325 (6,192)	6,588 (1,647)	11,172 (2,579)	71,182 (62,887)
(23) 館蔵和古書画像データベース	検索件数	597 (743)	837 (753)	625 (788)	656 (6,744)	426 (1,013)	497 (623)	638 (848)	673 (633)	980 (538)	494 (806)	329 (557)	289 (562)	7,041 (14,608)
(24) 古典学統合データベース *2008.12.15公開	検索件数		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	248	458	317	272	1295
(25) 伝記解題データベース *2008.12.15公開	検索件数			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	123	282	224	107	736
(26) 国際日本文学共同研究データベース *2008.12.15公開	検索件数			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	42	75	39	84	240
(27) 館蔵神社明細帳データベース *2009.1.6公開	検索件数			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	289	219	166	674

データベースサービスシステム総合窓口業務 件数

Web 受付	19 (7)	12 (11)	9 (11)	12 (9)	7 (11)	13 (6)	25 (14)	20 (5)	7 (5)	13 (13)	5 (4)	9 (10)	151 (106)
e-mail 受付	6 (8)	16 (9)	12 (7)	22 (17)	17 (13)	12 (3)	12 (12)	10 (4)	5 (2)	16 (5)	24 (1)	13 (4)	165 (85)

*レファレンス詳細については、情報資料サービス事業部資料を参照

3. 情報資料サービス事業部

【総括】

平成20年4月1日から新しい閲覧室で閲覧業務を再開した。国文関係と歴史関係の資料の閲覧を完全に一元化することができた。開架資料が増えたことで書庫資料の出納が半減し、省力化に繋がった。また、7月からは平成4年5月以降中断していた土曜日の閲覧を再開した。

デジタル画像公開に関して、従来から公開していた近代画像及び収集画像（愛媛大学附属図書館、富加町郷土資料館）に加えて、平成21年3月に「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」から、懸案であった当館所蔵貴重書画像を公開した。また、収集マイクロ資料から作成したデジタル画像（祐徳稲荷神社、八戸市立図書館）についても同データベースから公開を一部開始している。

他機関（個人を含む）が所蔵する古典籍の撮影による収集及び保存方法について検討した。収集、保存とも基本はマイクロフィルムとし、カラー撮影が必要な場合はデジタル撮影の併用を検討する。デジタル撮影で収集を行った場合は、マイクロフィルムに変換して保存を図ることを決定した。

【図書資料の収集】

（1）概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画を立て収集している。加えて、平成17年度からは館として特色あるコレクションを形成し、広く普及利用を図っていく方針を確認し、蔵書の充実に努めている。

（2）活動記録

- ① 図書資料の体系的な収集に努めた。受入統計は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

資料種別	日本文学関係				歴史関係				
	点数等		冊数等		点数等		冊数等		
	平成20年度	累積	平成20年度	累積	平成20年度	累積	平成20年度	累積	
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	1,724点	181,269点	316リール	40,582リール	1件	188件	6リール	5,852リール
	マイクロフィッシュ	0点	16,667点	0枚	57,358枚	—	—	—	—
	紙焼写真本	—	—	68冊	74,342冊	—	—	0冊	11,196冊
図書	写本・版本	163点	10,481点	444冊	35,753冊	—	—	—	—
	活字本・影印本等	—	—	3,379冊	94,507冊	—	—	2,237冊	62,662冊
	逐次刊行物	1,271誌	5,608誌	3,466冊	170,362冊	1,175誌	—	12,569冊	74,869冊
所蔵史料	—	—	—	—	3件	433件	—	約500,000点	
寄託資料・寄託史料	3件	10件	10,074冊	14,589冊	0件	17件	0件	7,032点	

- ② 大型コレクション2件の寄託を受け入れた。

ひとつは（株）オリコミサービスの顧問をしていた増田太次郎氏（平成2年没）が収集した江戸時代から昭和までの広告資料で、「増田コレクション」と命名されているもの。もうひとつは、山鹿素行関係の「山鹿文庫」で、重要文化財55点を含む。

資料2 主な寄贈・寄託資料

申込種別		所蔵者	内容	点数	区分
寄贈	新規	岡崎久司	源氏絵	1点	国文
寄託	追加	松野陽一	千載和歌集ほか	3点	国文
寄託	追加	徳川陽子	目録類ほか	23点	国文
寄託	新規	オリコミサービス	引札、絵びら、ちらし類	約6,690枚	国文
寄託	新規	川崎緑	万葉集略解	1点	国文
寄託	新規	山鹿高清	山鹿素行関係資料	約1,040点	国文

③ 源氏物語に関する資料を、近世以前の原本から近現代の口語訳やアニメーションに至るまで幅広く収集し、将来「源氏文庫」として公開する計画を立て、今年度は原本5点を購入し、合計21点となった。

資料3 源氏文庫購入資料

書名	数量
[香之図巻]	1軸
源氏香之図	1帖
源氏物語 総角	1冊
源氏五十四帖(月耕画)	1帖
大倉好斎書状等	一括

【図書資料の受入・整理】

(1) 概要

今までOPACで公開していなかった歴史関係の図書・逐次刊行物を公開するため、新規受入分から着手した。逐次刊行物は、遡及入力も順次進めている。

マイクロ資料の目録作成に関しては、平成22年度をめどに滞貨解消に努めているが、今年度は、約3,000件の書誌データを登録した。

また、学術企画連携部による日本古典籍講習会で、古典籍の整理方法について、当館データベースを利用した目録作成の普及を図っている。

(2) 活動記録

以下の活動を行った。

① 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書5点を指定した。

資料4 新指定貴重書

項目	請求記号・ 文庫番号	書名	備考
貴重書	99-129	韻鏡	室町時代(永禄7年)刊
	99-130	韻鏡秘決	室町時代の写本
	99-131	宝篋印陀羅尼經	平安末から鎌倉初期刊本
	99-132	金々先生栄花夢	保存の良い初版本
	99-133	二十卷本類聚歌合断簡	平安時代後期写の古筆切

② 資料の整理・目録作成

a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約 6,000 件
- ・書誌データ登録 約 3,000 件
- ・データベース移植時の未コントロール分処理 約 2,000 件
- ・その他（マイクロ書誌データと調査カードデータとのリンク形成 約 10,100 件を含む文献資料収集調査事業との調整等）

資料5 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者・文庫名	サービス区分	リール番号	件数
20	宮内庁書陵部	A'	635-676	311
26	酒田市立光丘文庫	A'	461-479	165
33	東洋文庫	E	紙焼写真	101
255	新城ふるさと情報館（牧野文庫）	A	370-427	116
281	盛岡市中央公民館	A'	922-942	106
296	尊経閣文庫	E	紙焼写真	69
324	新潟大学附属図書館	B'	263-282	97
332	ノートルダム清心女子大学附属図書館	D	282-321	309
339	篠山市教育委員会（青山歴史村）	A'	138-164	104
351	京都総合資料館	A'	105-138	232
362	黒川村公民館	A	78-105	152
363	鳥取県立図書館	A	116-145	122
369	山形短期大学附属図書館	A'	1-27	50
370	奈良女子大学附属図書館	B'	21-41	80
ハ3	初瀬川文庫	A	125-134	25
ユ1	祐徳稲荷神社	A'	139-285	1,004
				3,043

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 362 点
- ・明治期資料の整理 683 点
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 165 点
- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 1,187 点

c. 活字本・影印本の整理

滞貨していた大型コレクションの目録作成を実施することができた。

- ・活字本・影印本の目録作成 8,216 冊

d. アーカイブズ関係図書等の整理

- ・図書目録作成 498 冊
- ・アーカイブズ学関係雑誌整理 1,374 冊

【資料の保存】

(1) 概要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

(2) 活動記録

① 文書・記録類の保存・修復処置

- a. 本格的保存措置（史料目録刊行済みのものについて、閲覧用識別ラベル貼付、中性紙封筒・帙等への収納と状態調査記録作成、部分的修復処置）……3,176点

（「尾張国海西郡綱浦村木下家文書」）

- b. 簡易的保存措置（保存容器への収納）

移転用段ボール箱から中性紙保存箱への入替作業を行った（中性紙封筒・帙等への入替を含む）。……約7,100箱 次年度も入替作業を継続し、次いで確認作業を行う。

閲覧出納時等に気がついたものについて、中性紙封筒・帙等への収納・入替を行った。……745点

- c. 部分的修復処置（紙継剥離貼り合わせ等）……9点

閲覧出納時等に気がついたものについて、処置をほどこした。

② 古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新収資料の燻蒸

無酸素による燻蒸を実施した。

- b. 補修

虫損が著しく閲覧が困難な高乗勲文庫の『徒然草三箇大事』（写1冊）、『義貞軍記』（写1冊）、『吉野拾遺』（刊3冊）、『常陸帯』（写1冊）、『念仏歌仙』（刊1冊）の補修を専門家に依頼した。

③ マイクロフィルムの保存

- a. 劣化フィルムの複製

劣化が進みつつあるトリアセテートベースフィルム4,585リールの複製を実施した。複製が必要な27,023リールのうち残りは16,078リールとなった。

- b. 永久保存マイクロ保管設備

来年度設置予定の設備の仕様検討を開始した。

【利用者サービス】

(1) 概要

① 新閲覧室でサービス開始

- ・4月から新閲覧室でサービスを再開した。今年度の利用者数は、移転前とほぼ同程度であった。
- ・利用の多い図書・雑誌、紙焼写真本を開架したことで閲覧利用の利便性が向上し、資料出納件数は半減した。書庫への距離が長くなり出納に時間がかかるが、全体としては出納の省力化につながった。一方、カウンターを複数コーナーに分けたこと、開架資料の維持など、より人員が必要になった要素もある。

② 土曜開館

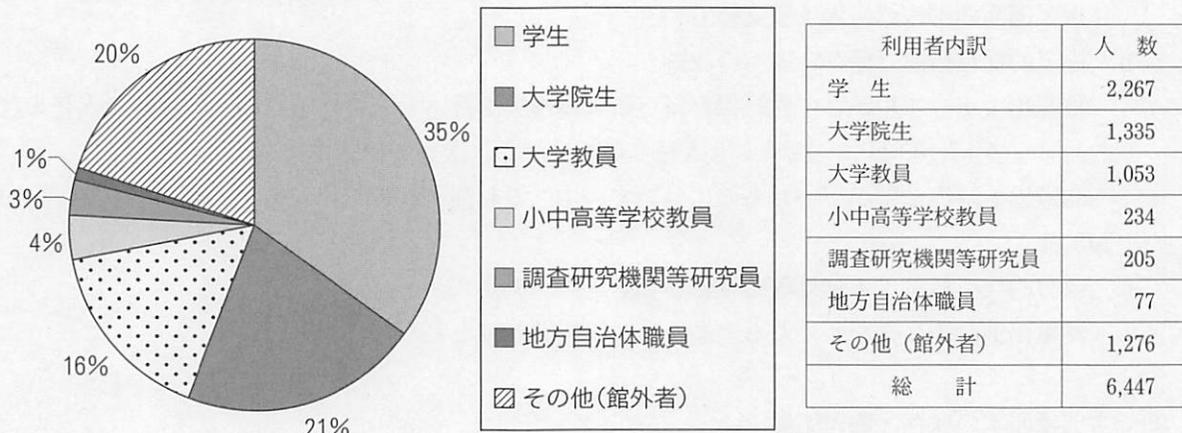
7月から土曜開館を開始した。利用者層、利用のされ方は、平日と大きな違いは見られなかった。実施したアンケートの結果などを参考に、サービス形態を改善して行きたい。

(2) 活動記録

① 資料の閲覧及び複写

開館日数は244日、登録者は2,024人、来館利用者数は6,447人であった。月平均の利用者、文献複写受付件数は移転前の通年開館時とほぼ同じであった。来館利用者の構成は移転前と比べ、顕著な変化は見られなかった。

資料6 来館利用者の構成



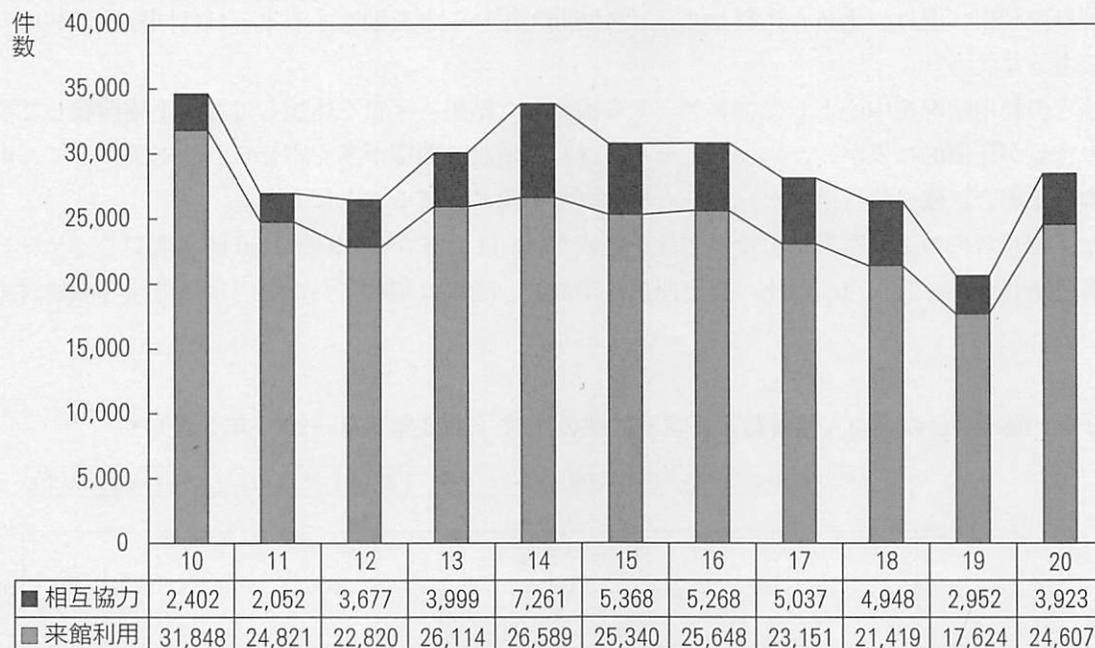
資料7 資料出納点数

項 目	
図 書	2,770
逐次刊行物	1,562
ポジフィルム	2,603
紙焼写真本	1,028
史 料	12,591
紙焼写真本一夜貸	41
合 計	20,595

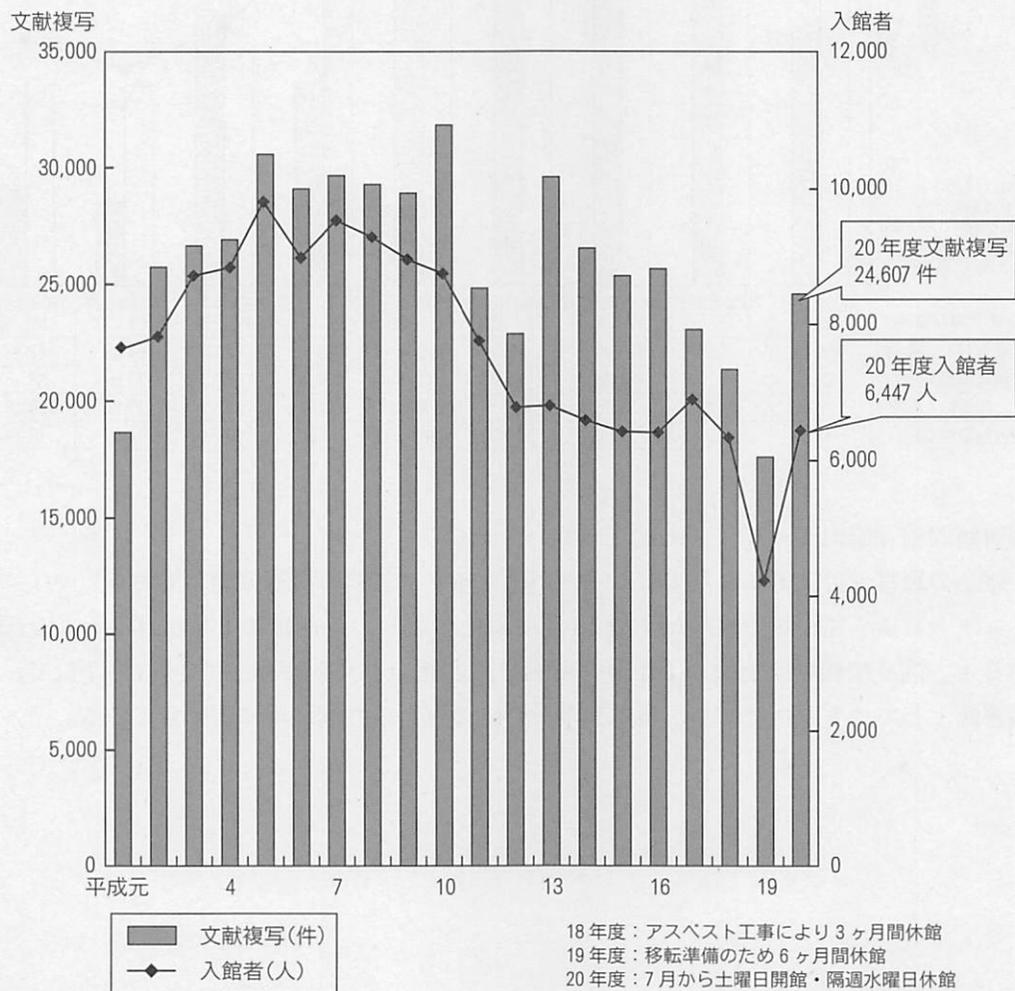
資料8 文献複写(来館・個人郵送FAX受付)

項 目	数 量		料 金
	単 位	枚(コマ)	
電子複写	22,761	177,378	2,588,585
(内セルフコピー)	18,556	144,016	1,440,160
RPによる電子複写	1,780	59,907	2,355,375
フィルム複製	23	25	26,250
紙焼作製	43	3,286	373,260
送 料			119,010

参考資料 文献複写件数推移



参考資料 来館利用状況の推移



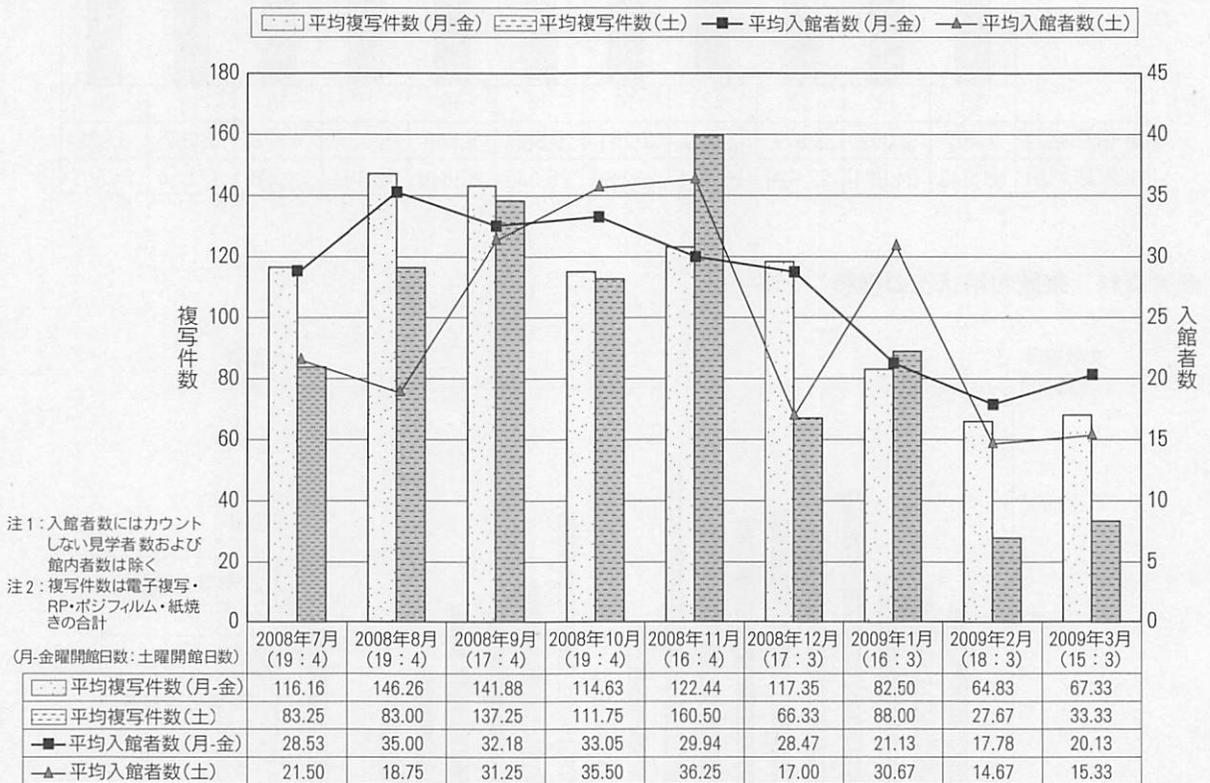
② 土曜開館

土曜日の利用状況は、平日と比較しサービス時間が短いことを勘案すると、ほぼ同程度の利用のされ方であった。

土曜日の利用状況を中心としてアンケートを実施した結果、平日を休館してでも土曜開館して欲しいとの意見が圧倒的に多かった。また、セルフコピー増設の要望が多く寄せられ、対策として、申込が集中した場合、職員代行用コピー機をセルフコピー用に充てることにした。

また、相互貸借の紙焼写真本の貸出冊数を平成 18 年 11 月末から 10 冊を 20 冊に増やし、サービス向上を目指したが、改正以前に比べ貸出冊数は半減し、効果は現れていない。宣伝方法等を検討する必要がある。

資料 9 土曜と平日の平均入館者数及び複写件数の比較 (2008 年 7 月～2009 年 3 月)



注1: 入館者数にはカウントしない見学者数および館内者数は除く
注2: 複写件数は電子複写・RP・ポジフィルム・紙焼きの合計

(月-金開館日数: 土曜開館日数)

③ 図書館間相互協力サービス (ILL)

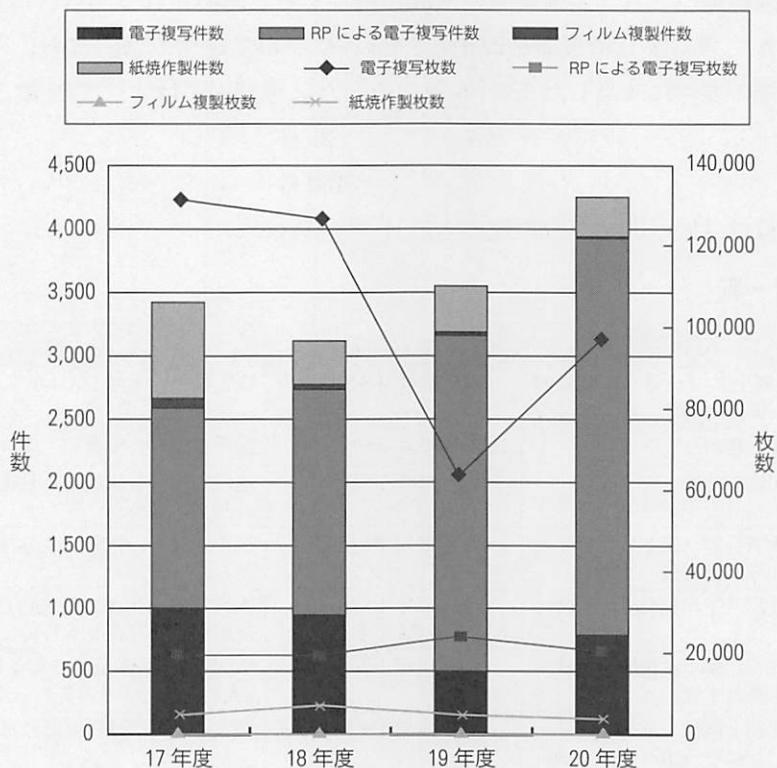
図書・雑誌の複写受付は例年より少なかったが、マイクロ資料の複写は増えており、マイクロリーダープリンターによる電子複写枚数は平成 16 年度に比べ 3 倍、17 年度の 2 倍に達した。全国レベルで比較すると、国立情報学研究所の ILL 参加組織 1,132 館中、文献複写受付件数は 47 位で、人文系の専門図書館としてはトップであり、日本文学分野での資料の共同利用に貢献している。

資料 10 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
貸借	図 書	44 件、44 点、52 冊		12 件 12 点
	紙焼写真本	9 件、20 点、30 冊		14 冊
複写	電子複写	3,148 件	23,227 枚	53 件
	RP による電子複写	658 件	99,227 枚	50 件
	フィルム複製	2 件	418 コマ	0 件
	紙焼作製	115 件	9,743 枚	27 件
	合 計	117 件	132,615 枚	130 件

参考資料 相互協力複写比較

	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
電子複写件数	4,252	4,093	2,031	3,148
RP による電子複写件数	619	631	770	658
フィルム複製件数	12	4	9	2
紙焼作製件数	154	220	142	115
電子複写枚数	30,484	29,059	14,915	23,227
RP による電子複写枚数	49,809	55,792	83,562	99,227
フィルム複製枚数	2,065	593	429	418
紙焼作製枚数	24,354	11,782	11,817	9,743



④ レファレンスサービス

レファレンスサービスを継続して行った。移転直後ということで、利用に関する問い合わせが多く寄せられた。

資料11 レファレンスサービス件数

質問の種類		件数
文書による質問		43
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	151
	問い合わせメール	136
電話による質問	所蔵調査	784
	利用についての問い合わせ	1,570
クイック・レファレンス（閲覧カウンターでの質問）		716
合計		3,400

参考資料 レファレンス総合窓口システムへの問合せ内訳

区分	職業	1. 教員	2. 大学院生	3. 大学・短大・高専	4. 高校生	5. 中学生以下	6. その他一般		合計
			37	18	8	1	0	88	
種別	種別	1. 参考	2. 利用案内	3. 所蔵案内	4. HP上の障害	5. HP上の操作	6. その他		合計
		57	50	13	4	3	24		151
回答法	回答法	1. カウンター	2. 電話	3. Web	4. e-mail	5. Fax	6. 書面	7. その他	合計
		2	3	139	5	0	0	2	151

※職業欄は受付日基準でカウント、種別及び回答法は回答日基準でカウント

⑤ 掲載許可申請受付（今年度決裁分）

研究者から免除願が提出され、学術研究の進展に寄与すると認められる場合、写真掲載の掲載料金を無償とすることができるように規程を改正し、29件について適用した。なお、写真掲載全件のうち、上記も含め数種の要件に該当した78件を無償とした。翻刻掲載はすべて無償である。

- ・翻刻掲載 26件
- ・写真掲載 160件

⑥ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 9件

資料12 展示貸付一覧

貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
徳島県立博物館	『郷土』の発見 小杉樫郎と郷土史研究の曙	平成20年4～5月	徴古雑抄 阿波1ほか	8
国立能楽堂	源氏物語と能	平成20年5～6月	源氏小鏡（貴重書）ほか	8
千葉県立安房博物館	房総の捕鯨	平成20年7～9月	捕鯨図絵（祭魚洞文庫旧蔵水産史料のうち）ほか	22
川越市立博物館	大名行列 描かれた松平大和守家の行列	平成20年10～11月	松平伊豆守行列図（大河内家寄託のうち）	1
安城市歴史博物館	江戸っ子が見た三河万歳	平成20年12月～平成21年2月	本坂御往来留書 5（近江国引佐郡気賀宿中村家文書のうち）ほか	4
府中市郷土の森博物館	代官川崎平右衛門 時代が求めた才覚の人	平成21年1～3月	大岡忠相日記 元文5年4月（自筆本）（大岡家寄託のうち）ほか	5
横浜市歴史博物館	黒船・開国・社会騒乱 日記にみる150年前の横浜	平成21年1～3月	藤文酒詩稿（渡辺家旧蔵書）ほか	10
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館	世阿弥発見100年 吉田東伍と能楽研究の歩み	平成21年3月	金春禅竹伝書（五音之次第・五音三曲集・六輪一露）（貴重書）	3
富士市立博物館	富士川を渡る歴史	平成21年3～5月	天和2年8月朝鮮人來朝ニ付富士川船橋絵図（駿河国富士郡岩本村文書ならびに富士川交通史料写のうち）ほか	7

⑦ その他

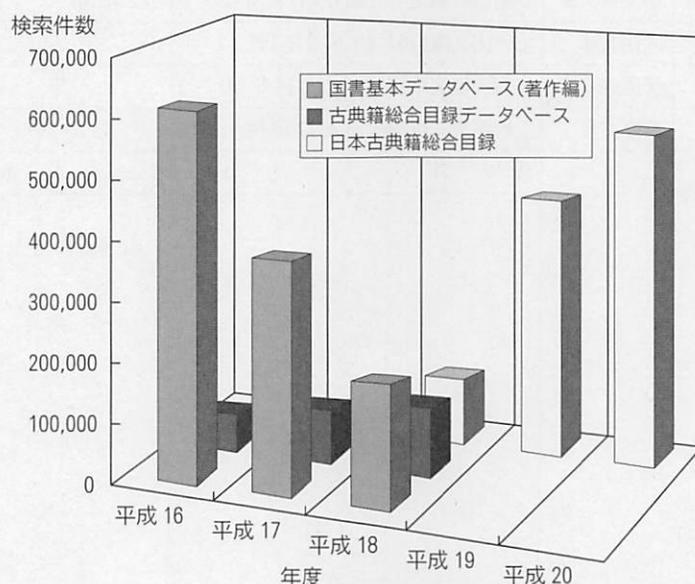
アスベスト工事、移転準備のため二年間休止していた資料撮影、雑誌製本（419冊）を行った。資料撮影は、マイクロ撮影（176点）、絵入資料を中心としたデジタル撮影（貴重書23点・和古書173点）を平行して行った。

【古典籍総合目録事業】

(1) 概要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成18年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ資料目録データも含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

参考資料 古典籍総合目録データベース利用件数推移



*「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」は平成18年12月27日で停止。「日本古典籍総合目録」を同日より公開。

(2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソース収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データ作成（登録） 約6,300件
- ③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂
- ④ 公開データベースの更新
「日本古典籍総合目録」「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」とも
（平成20年12月）（平成21年3月）
- ⑤ 高次化画像公開のためのシステム開発

- ⑥ その他（マイクロ／デジタル資料目録・和古書目録作成と共用する業務データベースシステムの改修・「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」公開システムの改修・日本古典籍総合目録の改修）

資料 13 古典籍総合目録データ作成 所蔵者・目録一覧

	所蔵者	コレクション		データ数	
1	宮城県図書館		宮城県図書館和古書目録（平成3年刊）	1,208	
2	宮城県図書館	小西文庫	宮城県図書館蔵 小西文庫和漢書目録（昭和58年刊 特殊文庫目録 第1冊）	262	入力中
3	宮城県図書館	伊達文庫	宮城県図書館蔵伊達文庫目録（昭和62年刊）	1,536	入力中
4	宮城県図書館	青柳文庫	青柳・今泉・大槻・養賢堂文庫和漢古書目録（昭和59年刊）	645	
5	高遠町図書館	進徳館蔵書	高遠藩進徳館蔵書本目録（平成16年刊）	174	
6	龍谷大学附属図書館大宮分館	写字台文庫	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 自然科学部（平成12年刊）	654	
7	東海大学中央図書館	桃園文庫	桃園文庫目録（昭和61年刊）	388	入力中
8	皇學館大学神道研究所	每文社文庫	原田敏明先生旧蔵每文社文庫目録（平成8年刊）	363	入力中
9	高野山大学図書館	大山文庫	大山文庫目録（平成3年刊）	438	入力中
10	愛媛県立図書館	楽園地文庫	楽園地文庫目録（平成14年刊）	229	
11	大阪女子大学図書館	椿亭文庫	椿亭文庫目録（平成17年刊）	389	
	合 計			6,286	

4. 学術企画連携部

【総括】

学術企画連携部は、講演、展示、シンポジウム、セミナー等の各種イベントを通じて、館の学問的成果を広く社会に還元し、社会貢献を具体的に実現することを任務としている。あわせて国際的連携を多様に行う館の取り組みも盛り込み、その活動はそのまま国際社会への貴重な貢献を担っている。

平成20年度において、各事業を以下のとおり実施し、その目的を十分に達成することができた。さらに今後、中期計画の推進によって得られたすぐれた研究成果を次々と発信して行き、当館の知的財産として蓄積していく予定である。

i) 国際交流室

○概要

平成20年度の国際交流事業は、国際シンポジウムの開催、研究者の受け入れ、学術交流協定の締結などを中心に、活発に実施されたといえる。

特記すべきは、ハーバード大学国際研究集会『文学の創造物—日本の書籍・文書・絵巻物—』を共同主催したことで、当館の使命である日本文学関係資料の調査・研究に即した形で国際的な研究集会を実現できた意義は小さくはない。また、コロンビア大学東アジア言語文化学部と学術交流協定を結んだことも、これまで欧州、アジアに比べて、館としての取り組みが遅れていた、米国の研究機関との組織的な交流を行う基礎ができたということによって大きな意味がある。

今年度から、学術企画連携部のもとに国際交流室が新設され、その集約、統括の元に、事業を実施するという方針が確立された。併せて小冊子「国文学研究資料館の国際交流（平成16～19年度）」をまとめた。

○活動記録

【国際シンポジウム等の開催】

(1) 国際絵本シンポジウム『江戸の絵本・画譜』

日 程：平成20年6月28（土）～29日（日）

場 所：当館大会議室

目 的：研究プロジェクト「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」の研究活動の一環とした国際シンポジウムで、実践女子大学文芸資料研究所と当館が共同主催した。

参加者：172名（延べ人数）

(2) 第32回国際日本文学研究集会『世界文学の中の日本文学』（物語の過去と未来）

日 程：平成20年10月11（土）～12日（日）

場 所：当館大会議室

目 的：日本文学研究に対する、海外からの客観的かつ新鮮な視点を受け容れつつ、日本文学研究のあるべき姿を広い視野から探り、その国際的展開を目指し、毎年秋に開催している。

参加者：133人（延べ人数）

(3) ハーバード大学国際研究集会『文学の創造物—日本の書籍・文書・絵巻物—』

日 程：平成20年11月21（金）～22日（土）

場 所：ハーバード大学

目 的：日本文学について、資料レベルに焦点を当てて考察することをコンセプトとした国際シンポジウムで、ハーバード大学と当館が共同主催した。

参加者：約 30 名

【海外研究者の受入】

(1) 外国人研究員の招聘

文学資源研究系客員教授 マティ、フォラー(ライデン国立民族学博物館主任研究員 オランダ王国)

招へい期間：平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日

所属研究系：文学資源研究系(客員教授)

研究プロジェクト名：日本古典籍特定コレクションの目録化の研究

(2) 外来研究員の受入

① 金 慶南(国家記録院・記録研究士 大韓民国)

受入期間：平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日

② 韓 聃(四川大学文学与新聞学院 中華人民共和国)

受入期間：平成 20 年 9 月 29 日(月)～平成 21 年 9 月 28 日(月)

③ ウィリアム・フレミング(ハーバード大学東アジア言語・文化学部博士課程 アメリカ合衆国)

受入期間：平成 20 年 9 月 11 日(木)～平成 21 年 9 月 10 日(木)

【学術交流協定締結】

コロンビア大学東洋言語文化学部(アメリカ合衆国) 平成 21 年 2 月 20 日(金) 締結

【海外機関との交流】

(1) 海外機関からの視察

① 台湾行政院国家科学委員会人文処電子資料庫工作準備委員 廖炳惠氏 他 7 名
(平成 20 年 4 月 20 日)

目的：当館におけるデータベースの構築・発信に関わる具体的な作業やシステム等について視察するため。

② 高麗大学校日本研究センター 崔官氏 他 1 名 (平成 20 年 7 月 4 日(金))

目的：同センターと当館の学術交流の可能性を探るため。

(2) 国際会議等への参加

大友 一雄 4 月 機構連携研究『武士関係資料の総合化』国際研究集会参加
(フランス共和国)

伊井 春樹 6 月 国際研究集会参加『オランダと日本—文化的〈対話〉の軌跡』
(オランダ王国)

大高 洋司 6 月 //

伊藤 鉄也 6 月 //

谷川 恵一 6 月 //

木戸 雄一 6 月 //

入口 敦志 6 月 //

前川 佳遠理 6 月 //

野本 忠司 7 月 SIGIR 2008 参加(シンガポール共和国)

山下 則子 8 月 AJLS での招待研究発表会参加(カナダ)

相田 満 8 月 研究集会参加(台湾)

鈴木 淳 9 月 第 19 回日本資料専門家欧州協会(EAJRS)年次会議
(ポルトガル共和国)

古瀬 蔵 9 月 //

武井協三	9月	第12回ヨーロッパ日本研究協会国際会議 シンポジウムに参加 (イタリア共和国)
山下則子	9月	〃
伊井春樹	11月	ハーバード大学国際研究集会『文学の創造物—日本の書籍・文書・絵巻物—』(アメリカ合衆国)
鈴木 淳	11月	〃
小林健司	11月	〃
伊藤鉄也	11月	〃
伊井春樹	2月	コロンビア大学との学術協定(アメリカ合衆国)
鈴木 淳	2月	〃
渡辺浩一	3月	韓国古文書学会主催の国際研究会『国際比較の観点からみたアーカイブズ』(大韓民国)

ii) 展示企画室

【展 示】

(1) 移転記念特別展「よみがえる時—春日懐紙を中心に—」

当館の立川市移転に伴い、「古典を未来に伝承する国文研」の紹介を兼ねて、館蔵の貴重書を中心に、古典文学の名作や近代文学の作品、歴史史料を織り交ぜ展示した。学術的にも価値の高い品々について、最新の研究成果を盛り込みつつ、限られた愛好家や研究者向けになりがちであった従来の展示を、地域住民にも広く開かれたものとして、一般市民に親しみやすい作品を展示した。

日 程：平成20年5月26日(月)～6月20日(金) ※内覧会 平成20年5月23日(金)

場 所：当館展示室

鑑賞者：664名

(2) 企画展示「明治開化期の錦絵」

当館が所蔵する「日本実業史博物館準備室旧蔵資料」のうち錦絵99点について、原寸大に複製した資料を展示した。「日本実業史博物館」は、日本における近代実業家の第1人者渋沢栄一の遺徳顕彰記念事業として企画され、東京都北区の飛鳥山に建設を予定して、資料収集を開始したが、第二次世界大戦や戦後の財閥解体などの混乱から、昭和26年に文部省史料館(当館の前身)へ収集品が寄託(のち寄贈)された。錦絵コレクションは実業史博物館設立のための収集資料であることから、芸術的視点よりも、歴史的視覚的資料として、価値の高いものが集められた。江戸時代から明治にかけての事物や風俗が生き生きと表現されており、近代化の波が押し寄せた激動の日本社会を理解することができる。

日 程：平成20年8月11日(月)～9月5日(金)

場 所：当館展示室

鑑賞者：343名

(3) 立川移転記念特別展「源氏物語—千年のかがやき—」

源氏物語一千年紀、国文学研究資料館移転の年と重なることもあり2年前から準備をすすめて、その成果の一部を展示した。この1000年間「源氏物語」がどのような形で読み継がれてきたのかを、画帳・絵巻・写本・注釈書・翻訳書などを通して一望し、未紹介資料の初公開・初解説を、展示の目玉をした。また、今回の展示は館が所蔵するものだけでなく、他機関が所蔵している重要文化財を含む資料をも貸与いただき構成した。

なお、本展示については、当館として初めて特別鑑賞料を徴収することとし、1回の鑑賞で400円を徴収した。

日 程：平成 20 年 10 月 4 日（土）～10 月 31 日（金） ※内覧会 平成 20 年 10 月 3 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：4,069 名（内訳：特別鑑賞券 1,722 名、招待券 1,309 名、その他 1,038 名）

※内訳のその他は、当日開催された学会、当館講演会等の催し物などの参加者で展示を鑑賞した人数。

(4) 企画展示「試みの絵巻展」

本物だけではなく、一部模本を使い、模本の難しさを比較してみたり、色合いの残り具合など歴史的時間も楽しめるように工夫し展示した。

日 程：平成 20 年 11 月 17 日（月）～12 月 19 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：718 名

(5) 企画展示「今年の「干支」展」

今年の干支展として「牛・丑」をテーマに展示を企画し、所蔵資料の中から「牛」のさまざまな姿を紹介した。鑑賞者に文学作品や絵巻物、錦絵と記録史料に表現された牛たちを見てもらい、牛に託された各時代のイメージを楽しんでもらう構成とした。

日 程：平成 21 年 1 月 19 日（月）～2 月 13 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：446 名

(6) 研究展示「日本実業史博物館からのメッセージ—渋沢栄一と算盤・敬三と広告—」

日本実業史博物館という幻の博物館のコレクションからのメッセージとして、渋沢栄一にちなむ「算盤」と敬三が収集に力を入れた「広告」を展示した。

「算盤」の展示では、利と負を数える算盤の形と技法を見ていただくとともに、日本実業史博物館が算盤をどのように展示しようとしたのか、遺されたコレクションから検証することを目的とした。また、「広告」の展示では、さまざまな広告を通じて、経済発展とモノづくりを見直し、混迷の時代を切り開くメッセージを鑑賞者に感じとっていただくことを目的とした。

なお、本展示は、人間文化研究機構連携研究「日本実業史博物館」資料の高度活用の研究成果として実施した。

日 程：平成 21 年 3 月 2 日（月）～27 日（金）

場 所：当館展示室

鑑賞者：521 名

iii) 広報出版室

【講演会】

(1) 連続講演

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演を、平成 12 年度から年 1 回（全 5 回）開催している。平成 20 年度は、「千年紀の源氏物語」のテーマで、跡見学園女子大学名誉教授・室伏信助氏による連続講演を行った。今回も各回 100 名ほどの参加者があり、最終回まで熱心に聴講した。最終回には講義前の時間を使って受講者の前で直衣姿となる過程を実演し、そのままの姿で講演するなど平安の香り漂う中での講演会となった。この講演は、笠間書院から『古典ルネッサンス』シリーズとして刊行の予定である。

名 称：平成 20 年度連続講演

テーマ：千年紀の源氏物語

講師：室伏 信助（跡見学園女子大学名誉教授）

日程：第1回	9月30日（火）	幻想から理想へ	114名
第2回	10月14日（火）	「人なくてつれづれなれば」	94名
第3回	10月28日（火）	竹取物語からうつほ物語へ	97名
第4回	11月11日（火）	伊勢物語と在五が物語	85名
第5回	11月18日（火）	紫式部日記という物語	94名

場所：当館大会議室

参加者数：484名（延べ）

(2) 源氏物語一千年紀 記念切手発行記念講演会

10月6日（月）に開催された本講演会は、「源氏物語一千年紀」切手のシートデザインに、当館の『源氏物語団扇画帖』が選ばれたことを記念して開催した。

講演会に先立ち、「源氏物語一千年紀」記念切手 初版刷り切手贈呈式として、郵便事業株式会社から伊井春樹館長に初刷り切手シートが贈呈された。

講演会では、初めにNHK番組キャスターの加賀美幸子氏から『源氏物語』若紫・御法巻の朗読と講演が行われた。加賀美氏は物語を耳で味わう大切さを説かれ、深みのある朗読に聴衆は魅了された。続いて対談「源氏物語トーク」では伊井館長と加賀美氏が『源氏物語』の魅力語り合った。

名称：源氏物語一千年紀 記念切手発行記念講演会

講師：加賀美 幸子（NHK番組キャスター）

日程：平成20年10月6日（月）

場所：当館大会議室

参加者数：159名

【シンポジウム】

(1) 平成20年度機構 講演会・シンポジウム 国際源氏物語研究集会「源氏物語の魅力」

本年が源氏物語一千年紀であることを記念しての企画であり、石上人間文化研究機構理事の進行により、金田人間文化研究機構長の挨拶の後、ハルオ・シラネ氏（コロンビア大学教授）、カレル・フィアラ氏（福井県立大学教授）、平野啓子氏（大阪芸術大学教授・語り部）、竹西寛子氏（作家）の多彩な講師によって、それぞれ「源氏物語の魅力」について基調講演が行われた。その後、休憩を挟んで、伊井春樹国文学研究資料館長の司会で、ハルオ・シラネ氏、カレル・フィアラ氏、平野啓子氏、スティーブン・ネルソン氏（法政大学教授）、ツベタナ・クリステワ氏（国際基督教大学教授）をパネラーに「源氏物語の世界を語る」と題して国際色豊かなメンバーによるシンポジウムが行われた。

国外の研究者から源氏物語が世界的に高い評価を受けていることの報告がなされ、また、平野氏の朗読や竹西氏の作家から見た源氏物語論などもあって会場を埋めた聴衆は熱心に耳を傾けていた。

名称：平成20年度機構 講演会・シンポジウム 国際源氏物語研究集会「源氏物語の魅力」

日時：平成20年10月13日（月、祝）

場所：有楽町朝日ホール

参加者：462名

題目とパネラー：

基調講演「源氏物語の魅力」	ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）
	カレル・フィアラ（福井県立大学教授）
	平野 啓子（語り部・大阪芸術大学教授）

竹西 寛子 (作家)

シンポジウム「源氏物語の世界を語る」

ハルオ・シラネ (コロンビア大学教授)

カレル・フィアラ (福井県立大学教授)

平野 啓子 (語り部・大阪芸術大学教授)

スティーブン・ネルソン (法政大学教授)

ツベタナ・クリステワ (国際基督教大学教授)

【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史資料を取扱う専門の人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催する。また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当するアーカイブズ研究系教員を中心にカリキュラム研究会を実施する。

長期コースは、前期7月7日(月)から4週間、後期8月25日(月)から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、24名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は8名、大学院生は16名であった。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した19名が修了論文を提出し、全員が審査に合格した。

短期コースは、11月17日(月)～22日(土)に滋賀大学経済経営研究所(彦根市)で開催され、36名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は32名、大学院生は4名であった。今年度短期コース受講生に対するアンケートによれば、授業科目の構成については、「かなり適切」「どちらかといえば適切」を合わせ94%、授業の方法については、「かなり適切」とするものが61%で、「どちらかといえば適切」とした者を加えると参加者の88%と、高い満足度を示し、高い評価を得ている。

(1) 長期コース

日 程：平成20年7月7日(月)～8月1日(金)、8月25日(月)～9月19日(金)

場 所：当館大会議室ほか

受講者：24名

(2) 短期コース

日 程：平成20年11月17日(月)～22日(土)

場 所：滋賀大学経営研究所

受講者：36名

【日本古典籍講習会】

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に、平成15年度から開始し、今年度で6回目である。第1回の平成15年度は、海外の図書館員等を対象として5日間開催、16年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第2回(16年度)以降は、国内の図書館員等を対象に3日間開催している。今年度は、平成21年1月14日(水)から16日(金)、当館及び国立国会図書館で開催され、大学図書館25名、公共図書館5名、計30名が受講した。

内容は、昨年と同様、日本古典籍の基礎知識、和古書目録の作成、データベース化の方法、近世の出版と流通、くずし字の読み方、蔵書印の見方・読み方などの講義、当館及び国立国会図書館の和古書目録規則の説明、古典籍資料の保存・管理法、貴重書紹介、書庫の見学などであった。

終了後のアンケートでは、講習会参加者 30 名のうちほとんどの参加者が「満足」に○印を付けるような、高い満足度を示した。また「目録のとり方・電子化・出版史・蔵書印等、バラエティに富んだ内容でとても勉強になりました。」「全般に実習や実践的な内容が多く、非常に参考になりました。」などの意見があり、大変好評であった。

日 程：平成 21 年 1 月 14 日（水）～16 日（金）

場 所：国文学研究資料館・国立国会図書館

受講者：30 名（内訳：大学図書館 25 名、公共図書館 5 名）

【子ども見学デー】

小学生を対象とした「子ども見学デー」を 8 月 27 日（水）に開催した。「子ども見学デー」は、法人化された平成 16 年度から開催しているもので、今回で 5 回目である。本年 3 月に品川区から立川に移転した後、初めての開催となった。今回は、立川第十小学校のサマースクールの一環として、小学生、小学校の先生及び保護者約 20 名が参加した。伊井館長の挨拶の後、当館がどのような研究をしているのかを見てもらうための館内見学、休憩を挟み、山下則子教授の「百人一首の話」の後、カルタ取り大会を行った。館内見学では展示していた錦絵の複製を見学した。「百人一首の話」では、百人一首の成り立ちや、色々な種類のカルタの紹介があり、その後のカルタ取り大会では、当館外から 3 人の講師を招き、立烏帽子狩衣姿で宮中歌会始めと同じ読み方で百人一首の和歌を読んでもらい、子ども達は熱心に取り組んだ。

日 程：平成 20 年 8 月 27 日（水）14 時 00 分～16 時 30 分

場 所：当館大会議室

内 容：「百人一首の話」

カルタ取り大会「歌会始めて百人一首」

山下則子（当館文学形成研究系教授）

青柳隆志（東京成徳大学人文学部教授）

兼築信行（早稲田大学文学学術院教授）

林 純一（披講学習会）

参加者：17 名（内訳：子ども 14 名、保護者ほか 3 名）

【出版関係】

(1) 平成 20 年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果を社会に還元する一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成 20 年度は、文学研究篇第 35 号、アーカイブズ研究篇第 5 号を刊行し、関係機関等に配布した。

(2) 研究成果刊行促進制度

本制度は、当館の研究をより広く社会に還元するため、研究成果の出版を希望する当館の研究者に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成 20 年度は、2 件の申請があり、学術企画連携部広報出版室において、外部委員を含めた審査会を実施した結果、2 件の申請を採択し、本制度を適用することとした。

(3) 国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に 4 回発行する。

平成 20 年度は、『国文学研究資料館ニュース』立川移転特別号を発行した後に、これまで刊行していた『国文学研究資料館ニュース』と『アーカイブズ・ニューズレター』を統合して誌面の刷新を図り、『国文研ニュース』とタイトルを改め、移転特別号・12・13・14 号の 3 冊を発行した。